Vol.6

関西大学 2023 地域連携事例集

Kansai University Examples of resolving community issues

関西大学地域連携センター

はじめに

関西大学地域連携センターは、地域との連携に関する本学の窓口として2005年4月に設置されました。

関西大学の学是は「学の実化(じつげ)」。この理念の提唱者山岡順太郎（1922年、大学昇格時の総理事、のちに第11代学長）はこの理念を、「学問の実質的価値は、其(そ)の社会化価値である。苟(いやしく)も学問である限り、確たる現実の事相に即し、実際から出発して一の原理に到達する順序と、更に学術的思索から実際に帰るといふ順序とが、表裏一体のものとならねばならぬ」（『千里山学報』第8号）と説明しております。地域連携活動は、人びとの生きている現実のなかから学んで学理に到達し、他方でまた、獲得しえた学問の成果を人びとの暮らしのなかに活かそうとする点で、まさに本学の学是「学の実化」を実践する営みです。

13学部を擁する関西大学が進めております地域連携活動について、その具体的な事例をご紹介するために、関西大学地域連携センターでは、この冊子『関西大学地域連携事例集』を編んでおります。

地域に関わるすべてのステイクホルダーにとって、より良い未来を描くことが出来るよう、今後も地域に関わり、地域と連携しながらそのミッションの遂行に努めて参りたいと思います。地域社会と本学との教育研究の協働がより一層活発化して、一丸となって「すべての人々にとって暮らしやすい地域づくり」にまい進していくマイルストーンとして、この冊子が有意義に活用されることを祈念しております。

関西大学地域連携センター長　横山　恵子

関西大学地域連携ポリシー

1. 自治体などを介して、地域社会と本学との教育研究の協働を実現することを通じて、地域社会の課題を解決することを目的とする。
2. 地域連携を活発化することで、本学の教育研究活動の高度化を促進する。
3. 持続的な事業の展開を実現するとともに、教育研究に関わる連携事業の成果を蓄積する。
4. 地元大阪・関西地区において、長年にわたり教育研究活動を積み重ねる本学の地域性を発揮する。
5. 総合大学としての強みを生かし、多様な考え方や価値観から生じる課題を有する、地域社会のニーズに対応する。
6. 関西大学をハブとして、地域社会からグローバル社会における多様な主体間の連携を創造し、高等教育研究機関としての責を果たす。

Contents

はじめに …… 1
関西大学は地域連携活動で何をめざしているか …… 3
地域連携活動とSDGs …… 4
事例一覧 …… 5
事例のご紹介 …… 7
自治体と連携した取り組み事例 …… 60
〈地域で活動する若い力〉奨励賞 …… 62
地域連携協定一覧 …… 64
地域連携活動の沿革 …… 67
地域連携に関する Q&A …… 68
学部・研究科一覧 …… 71
地域連携センターのご案内 …… 72
お問い合わせ先 …… 72

関西大学は地域連携活動で何をめざしているか

“社会”という語が広く開かれたイメージを呼び起こすのに対して、“地域”という語はひとつのまとまりを連想させます。そこには仕事も年齢もさまざまな人びとが住んでいて、それゆえ地域が抱える問題もいろいろですが、そうはいってもたがいに関わり合いながら、「ここに暮らしていてよかった」と思えるような居場所を作り上げる――“地域”の幸福はそこにあるでしょうし、関西大学が地域との連携活動を通じてめざすところもそこにあります。

しかし、研究と教育の機関である大学が、地域連携活動において何ができるだろうか――関西大学地域連携センターは、地域連携活動の目的と理念を以下の4つの項目に整理して考えております。

地域のニーズに大学が応える

地域の抱える課題はさまざまです。総合政策、安全・安心、人材育成、都市デザイン、環境・アセットマネジメント、福祉・人権、教育、文化・スポーツ振興、産業振興、健康・医療、などなど……。13の学部、15の研究科、国際部、教育推進部に研究者を擁する関西大学は、その豊富な人材を活かして地域の課題に応えるべく、地域連携活動にとりくんでおります。

大学のシーズを地域に活かす

どのような分野の学問であっても、究極的には、人びとの人生、暮らしのなかでその意義がためされるものです。関西大学の多彩な研究の萌芽が、実際に地域の土壌に根づき、発芽し、開花し、結実することをめざしております。

若い力が地域を活性化する

大学は若者が集います。教員のゼミで、また自主結成した団体で、多くの学生が地域連携活動に従事しています。「よそから来た若い人がこの土地に関心をもっている。この土地のよさを再発見した」。そういう感想をよくいただきます。若者の姿には、地域を活性化する「触媒」の働きがあるようです。

若い力は地域で伸びる

地域の課題にとりくみ、地域の皆さんと交流することで、学生は大学キャンパスのなかでは得られない貴重な経験をさせていただいております。関西大学は、学生がどこで暮らすにしてもその地域を支える人材となることを期待して、地域連携活動にとりくんでおります。

地域連携活動とSDGs（Sustainable Development Goals）

SDGs（持続可能な開発目標）は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」のなかに記載されている、2030年までの達成をめざした国際的な目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成されており、これらの目標は先進国も発展途上国も、つまりは世界全体でとりくむべきものとして宣言されています。

関西大学では2018年12月に学長の下にKANDAI for SDGs推進プロジェクトを設置し、本学に受け継がれてきた知と精神をもって、SDGsがめざす「地球上の誰一人として置き去りにしない（leave no one behind）」という世界規模の理念・目標にとりくんでおります。

関西大学×SDGs HP
https://www.kansai-u.ac.jp/sdgs/

地域連携活動の要諦は、前頁のとおり、地域の人びとが「ここに暮らしていてよかった」と思えるような居場所を作り上げることだと心得ております。

「地域の課題が世界目標であるSDGsとどう関係するのか」と思う方もおられるかもしれません。「持続可能な開発」というフレーズは、1980年にとりまとめられた「世界保全戦略」に初出し、1992年の国連地球サミットで「環境と開発に関するリオ宣言」に具体化されたという長い歴史をもっています。その歴史からすると、このフレーズは何よりも環境の保護と経済成長との調和を提唱しており、そのために、クリーンなエネルギーや循環型社会、環境にやさしい技術革新といった目標がただちに思い浮かべられます。

しかし、上記に示しますように、SDGsは、その後の経済のグローバリゼーションや、それにともなって広がりつつある国際間また国内における格差の問題も意識して、人間の暮らしに関わるきわめて包括的な課題を掲げております。SDGsが明記している諸目標のなかには、まさに地域の抱える課題がめざすところに直結しているものが少なからずあります。たとえば、下図に例をお示しいたします。

このほかにも、多種多様な地域連携活動が、SDGsのさまざまな目標に関係していることでしょう。本冊子では、各事例がSDGsのどの目標に関連しているか、上図に示すアイコンによって表示しております。

地場産業の振興
特産品の他地域での消費

子どもたちのスポーツ振興
高齢者対象の健康体操

地域におけるリサイクル活動

児童の読書推進、入院児童の教育機会
中高生・大人向けのIT技能の習熟

商店街の活性化

福祉・人権に関わる地域連携
日本と海外との国際比較

インフラ整備・環境保全
住み心地良いコミュニティの創設・維持

社会・安全に関わる活動

環境・アセットマネジメントに関わる
地域連携

事例一覧

事　例　名	所　属	教員名	種　別	ページ
大阪府のメインキャラクター「もずやん」を全国に！ 産学官連携プロジェクト『喫茶もずやんらんど』	社会学部	池内　裕美	総合政策	8
八尾市情報発信コーナーの活性化による市民の関与を 高める域学連携プロジェクト	教育推進部	山田　剛史		10
ドキュメンタリービデオ 「等身大学生～等身大×大学生の成長日記～」の制作	総合情報学部	岡田　朋之	人材育成	12
四万十町集落活動センターけやきを中心とした関係 人口および新事業を創出する社会実験	社会学部	与謝野有紀	都市デザイン	14
	社会学部	林　直保子		
再発見！水の都 大阪 『JAFMate』水都大阪紹介特集作り	社会学部	劉　　雪雁		16
今城塚古墳クイズラリー 「はにわたんけんたい」の開催	総合情報学部	岡田　朋之		18
デジタルフリーペーパー『関大生が行く JR穴場スポットぶらり旅』の制作	総合情報学部	岡田　朋之		20
沖縄県八重山地域における 若年層の関係人口創出スキームの構築	総合情報学部	岡田　朋之		22
HARVEST WEDDING ―秋咲く小路でウエディングを―	環境都市工学部	木下　　光		24
竹資源を活用したまちなみデザイン （丹波篠山市福住）	環境都市工学部	宮地　茉莉		26
食の魔女プロジェクト	商学部	横山　恵子	環境・アセットマネジメント	28
衣の魔女プロジェクト	商学部	横山　恵子	福祉・人権	30
福祉未来価値創造大賞2020プロジェクト	商学部	横山　恵子		32
	商学部	細見　正樹		
福祉×学生×お笑いによる ソーシャルプロダクツ啓発ツール作成	商学部	横山　恵子		34
男山地域まちづくり連携協定	外国語学部	高橋　秀彰	教育	36
幼児の運動能力向上に係る事業	人間健康学部	涌井　忠昭		38

事　例　名	所　属	教員名	種　別	ページ
考古学への誘い ～高槻市夏休み子ども大学におけるワークショップの実施～	文学部	米田　文孝	文化・スポーツ振興	40
「水都大阪」の魅力の再発見、近場で非日常を楽しむ ～東横堀川PRプロジェクト	社会学部	劉　　雪雁		42
若者向けに「水都大阪」の魅力発信 ～中之島を中心とするアート散歩プロジェクト	社会学部	劉　　雪雁		44
若者の視点からの民間スポーツクラブに対する 集客企画の提案	人間健康学部	西山　哲郎		46
特定非営利活動法人　関西大学カイザーズ 総合型地域スポーツ・文化クラブ	関西大学カイザーズクラブ			48
地域商業・産業振興・まちづくり・商品開発等に 関する研究調査および研究発表（ゼミナール活動）	経済学部	佐々木保幸	産業振興	50
富山県射水市におけるへちまSDGs活動の推進： 地方発グローバルSDGs活動の展開	商学部	小井川広志		52
新事業開発による伝統産業の活性化事業	社会学部	上野　恭裕		54
走るデパ地下：阪急のスイーツ移動販売プロジェクト	総合情報学部	徳山美津恵		56
関西大学リビングラボ	環境都市工学部	北詰　恵一	健康・医療	58

事例のご紹介

大阪府のメインキャラクター「もずやん」を全国に！産学官連携プロジェクト『喫茶もずやんらんど』

関大フェスティバルの店頭にて

#もずやん　#珈琲　#産学官連携

目 的

大阪府の公式キャラクター「もずやん」の認知度向上を目指し、4種のオリジナルコーヒー『喫茶もずやんらんど』を開発し、「関西大学フェスティバルin関西」で販売する

全員もずやんポーズ！

活動の概要

- **主な連携先**
  大阪府／山本珈琲株式会社／大阪アニメ・声優&eスポーツ専門学校（OAS）／関西大学社会学部池内裕美ゼミ
- **活動地域**
  関西大学千里山キャンパス（関西大学フェスティバルin関西）、あべのハルカス近鉄本店（近鉄百貨店）
- **活動期間**
  2022年度
- **活動資金**
  なし（自己負担）　※ただし連携先から数々の物品補助あり

連携にいたる経緯

大阪府から当研究室に“もずやんの認知度を上げるためのアイデアが欲しい”との要請を受け、商品開発を提案。既に大阪府とコラボ経験のある山本珈琲株式会社とOASが本企画に賛同し、4者協同でオリジナルのブレンド珈琲を開発・販売することになった。

「喫茶もずやんらんど」ブレンド珈琲4種

ハルカス学園祭「もずやん」来店！

活動内容

本プロジェクトは、「もずやん」の認知度向上を目指し、「関西大学フェスティバルin関西」（10月9日開催）での販売をゴールとして、左記の4者共同で取り組んだ。OASの学生と当ゼミ生で4つの混合チームを結成し、数度にわたる競合プレゼンを経て、最終的に商品名は「喫茶もずやんらんど」、商品コンセプトは「昭和レトロな遊園地をモチーフにした純喫茶」に決定。さらに、チームごとに、「観覧車」「ジェットコースター」「メリーゴーランド」「トロッコ列車」といった4種のアトラクションのイメージに合った珈琲豆の配合とパッケージデザインを制作した。また、PR動画や店頭POP、ポスターといった販促グッズなどの事前準備、そして当日の売り場づくりや販売活動もすべて学生主体で実施。当日は多くの方にご来店頂き、大盛況のうちに幕を閉じた。なお、その後、あべのハルカス近鉄本店で開催された「ハルカス学園祭」（11月17日～21日）にも出展し、ここでも学生自ら陳列・販売活動を行い、イベントを大いに盛り上げた。

活動の成果

- 学生たちには、学外者との交流や商品開発の楽しさと難しさを知る機会となった
- ゼミ運営には、多くの障壁を共に乗り越えることで凝集性の高まりをもたらした
- イベントには、学生自らが店頭に立つことで売り場の活性化をもたらした

今後の課題・目標・展開の可能性

- 本プロジェクトで得た学びの成果を次年度のゼミ生に継承し、発展させる
- 心理学の理論や法則をビジネスに活かすことで、さらなる社会貢献を行う
- 社会の中の「池内ゼミ」として、より活動の幅を広げることを目指す

連携先からの一言

難しい議題であったにもかかわらず、前向きに取り組んでいただきありがとうございました。皆さまが必死に取り組まれている姿に、私自身も刺激を受けました。この経験をぜひ、これからの人生に活かしていただけますと幸いです。

（大阪府 府政情報室 広報公聴課
広報グループ）

社会学部　教授　池内　裕美　Ikeuchi Hiromi

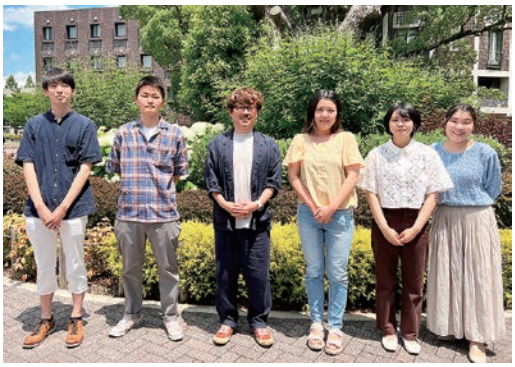
専門は社会心理学で、主な研究テーマは「逸脱的消費者行動に関する心理的メカニズムの解明」。特に苦情研究は注目度も高く、メディアからコメントを求められることも多い。

八尾市情報発信コーナーの活性化による市民の関与を高める域学連携プロジェクト

#広報機能の強化　#市民の健康増進　#学生の成長促進

目的

行政と市民とが一体的に地域の活性化に対する意識を高めること、学生が中心となって企画したイベントを通じて、市の情報発信コーナーがその中核として認知・活用されること



活動の概要

- **主な連携先**
  八尾市政策企画部広報・公民連携課　藤木得氏・杉谷拓海氏／関西大学学生
  小山夏波（文学部4年生）・池田楽々（文学部4年生）・清水翔（文学部3年生）・福中晴香（文学部3年生）・新谷遼平（商学部3年生）
- **活動地域**
  八尾市情報発信コーナー（八尾市内の大型商業施設アリオ八尾内）
- **活動期間**
  2022年6月～2023年3月
- **活動資金**
  9月までは自己負担、10月以降は地域連携活動に対する補助事業

連携にいたる経緯

当方が吹田市との連携に関するサービスラーニング科目（高年次共通教養科目）を実施していたこと、八尾市からは地域連携センターに協力要請が来ていたこと、双方のニーズが合致し、参画したい学生が集まったことから、活動を行うはこびとなった。

活動内容

まず、対象となる八尾市情報発信コーナー（アリオ八尾内）がどういう場所・環境で、どのような人たちが訪れているのか等の情報を集めるべく、現地調査や簡単なアンケートなどを実施した。次いで、誰を対象としてどのような企画を行うことが出来るのかを検討した。八尾市政策企画部広報・公民連携課の確認・了承を得る必要があるため、検討内容を適宜報告し、実現可能性の問題等から何度も見直しながら企画案を固めていった。最終的に、情報発信コーナー内の情報を活用して、健康に関するキーワード集めを行うことに落ち着いた。継続性を持たせるために単発イベントではなく、12月～2月までの3ヶ月間、3週間に2問ずつ出題し（ポスター等を作成・展示し）、全てのキーワードを繋ぐと1つの言葉が完成するというしかけに仕上げた。また、この間、2022年度の「<地域で活動する若い力>奨励賞プレゼンテーション審査会」や「吹田市・関西大学連携推進協議会」で発表を行う等、積極的に活動内容や成果、自分たちの成長について発信してきた。

活動の成果

- 実際の地域社会の課題解決に関与（企画から実施まで）し、市の活性化に貢献出来た
- 学生自身が直接担当者とのやり取りを通じて市政について理解を深めることが出来た
- 専攻や学年の異なる学生同士の深い交流・対話を通じて、人間的に大きく成長した

今後の課題・目標・展開の可能性

- 活動の継続性が最大の課題
- ゼミ・研究室単位ではない全学横断的に学生が関われる地域連携・活性化推進の仕組み
- 生徒・学生の学びと成長の促進に関わる教育分野での連携（特に、高大・大社連携）

連携先からの一言

情報発信コーナーが持つ課題へのアプローチをゼロから考えるのは、苦労したのではないかと思いますが、学部・学年の違う学生達が徐々に同じ方向を向いて、企画に取り組む姿を見て、成長を感じることができました。

本市としては、学生のフレッシュな発想を取り入れながら、企画を進めることができ、行政だけでは手が届かない層にも、アプローチすることができたのではないかと感じています。

（八尾市 政策企画部 広報・公民連携課）

教育推進部　教授　山田　剛史　Yamada Tsuyoshi

大阪市生まれ。神戸大学大学院博士後期課程修了後、島根大学講師・准教授、愛媛大学准教授、京都大学准教授を経て、2020年10月より現職。専門は高等教育開発・青年心理学。学校（子ども）から社会（大人）へと円滑に移行し、個人と社会のウェルビーイングを高めるための学校教育が研究テーマ。詳細はyamatuyo.comにて。

ドキュメンタリービデオ「等身大学生～等身大×大学生の成長日記～」の制作

#ビデオドキュメンタリー　#チャレンジ応援

目的

失敗を恐れたり、不安を抱えていたりして一歩を踏み出せない若者の背中を押せるような映像をつくる

活動の概要

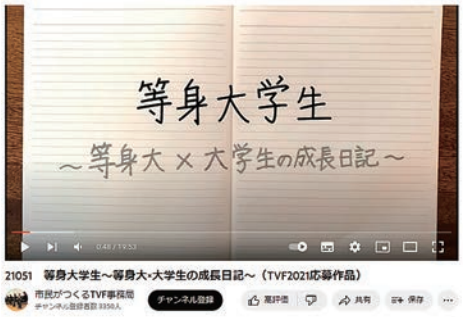
- **主な連携先**
  神戸大学地域密着型サークル「にしき恋」/ロックバンドFiSHBORN/関西大学総合情報学部岡田ゼミ ドキュメンタリー班
- **活動地域**
  大阪府高槻市、茨木市、兵庫県神戸市、丹波篠山市
- **活動期間**
  2019年～2020年
- **活動資金**
  関西大学総合情報学部実験実習材料費

連携にいたる経緯

連携先となった取材対象者はいずれもビデオの制作者と同年齢で、それぞれ全く異なる分野でチャレンジを続けている人々の実例ということで密着取材を申し込み、承諾を得た。

活動内容

「等身大学生～等身大×大学生の成長日記～」



動画は
こちらより
ご覧ください
↓

大阪府北部を中心に活動する女性三人組のロックバンドFiSHBORNと、兵庫県丹波篠山市西紀地区で農業ボランティアなどの地域振興活動に取り組む神戸大学のサークル「にしき恋」の代表者という、ビデオ制作側と同年齢の人々への密着取材によるビデオドキュメンタリー作品を制作する。そのプロセスを通じて制作者たち自身がチャレンジする勇気を感じとり、それまでの不安を振り払って一歩を踏み出そうとする自身の姿も含めて映像作品に描くことで、視聴者にもその勇気を伝えようとする。制作途中で新型コロナウイルスのパンデミックが始まり、中断を余儀なくされたが、その後はオンラインのリモート取材で活動を継続することにより、作品の完成に至った。完成作品は「地方の時代」映像祭2020と、東京ビデオフェスティバル2021に応募した。

活動の成果

- コロナ禍の制約下においてもビデオ制作を続けられる可能性を試すことができた
- 東京ビデオフェスティバル2021で入選作品に選出された
- これまでにあまり例のなかった、取材者自身を対象に含める手法が評価された

今後の課題・目標・展開の可能性

- リモート制作による可能性をどのように拡大できるか
- 制作者の視点の置き方など具体的な制作方法論の再検討
- コンクール等への応募以外での外部評価の可能性をさぐる

総合情報学部　教授　岡田　朋之　Okada Tomoyuki

専門はメディア論、文化社会学。ゼミでは「メディアで社会を動かす」をテーマに据え、メディアの制作実践を通して社会を問い直すことを課題としている。

四万十町集落活動センターけやきを中心とした関係人口および新事業を創出する社会実験

「いのり星®」の放流

#四万十川　#新事業創出　#旧小学校校舎

目 的

少子高齢人口減少化が進み小学校が休校・閉校になった地域において、旧小学校施設の利用法を提案・社会実験し、地域経済に資する新事業創出モデルを具体的に形成する

活動の概要

- **主な連携先**
  四万十町・オルモ組合／四万十町町役場／高知県立・窪川高校／株式会社ランドマーク・ジャパン／書家・今柄紫峯氏
- **活動地域**
  高知県高岡郡四万十町旧家地川小学校および四国電力佐賀堰堤上流域四万十川
- **活動期間**
  2019年～継続中
- **活動資金**
  任意団体・Links Keyaki活動資金（寄付金）／合同会社SOLARIS寄付金／四万十町役場、施設利用料免除措置を含む経済支援

連携にいたる経緯

2011年に、廃校跡にオープンした海洋堂ホビー館の参与観察的研究を行っている中で、旧家地川小学校の利用法について地域の方とやり取りする機会があり、以前より関わりを持っていた「いのり星®」の実施を軸とした関係人口創出の実践を企図するに至った。

体育館でのグランピング実験

活動内容

与謝野ゼミ生を中心に任意団体を立ち上げ、集落活動センターけやき（旧家地川小学校）の宿泊者を安定的に確保するために以下を実施した。1）利用がほぼない体育館について有効利用を提案し、経済資源を獲得できる場に再生する。2）地域の特産品を用いた新規商品を開発し、地域住民主体の新産業を創出する。3）地域の住民と協力し、四国を代表する新しい観光イベントを創出する。4）旧家地川小学校を利用した地域活性化活動を軸として、地域の高校生と共同し、都市―地域間高大連携による継続的地域活性化モデルを創出する。

これらの目的のために、2022年11月に、四国初となる「いのり星®」の放流を旧家地川小学校近辺の四万十川で行った。それとあわせて、体育館でのグランピング実験、生姜の佃煮等の販売社会実験、高校生と共同した大阪でのイベントおよび「いのり星®」放流での共同を実現した。また、体育館イベントとして書のパフォーマンスを行った。

これにより、地域主体の新事業創出の第一歩を踏み出すことができた。

活動の成果

- 小学校に近接する四万十川に、四国初となる「いのり星®」イベントを実施
- 旧小学校体育館を、おしゃれなグランピング施設として利用できることを実証
- 旧小学校を利用した新商品の販売とカヌーなどリクリエーションの展開可能性の実証

今後の課題・目標・展開の可能性

- 四万十川いのり星イベントの大規模化、定期開催化
- 生姜を用いた新商品のクラウドファンドによる開発推進と販売基盤の作成
- 旅行代理店、鉄道事業者との連携

連携先からの一言

学生のテキパキそつなくこなしていく姿勢に感銘を受け、現在は、学生の皆様の取り組みについて、地域が如何に応えられるのかを考えています。また、地域が今後なすべき取り組みについても参考になりました。

（四万十オルモ組合 代表　山田隆俊氏）

社会学部　教授　**与謝野　有紀**　Yosano Arinori

社会関係資本論、ポジティブネットワーク形成の理論などの理論的、実証的研究を基礎として、現実の社会問題、特に地域間格差の問題を解決するための実装研究の展開を模索中

社会学部　教授　**林　直保子**　Hayashi Nahoko

意思決定の心理学などの研究知見を基礎として、地域コミットメントの測定手法の開発、地域資源活用の実践的研究を展開。関大ベンチャー・合同会社SOLARIS代表

再発見！水の都 大阪
『JAFMate』水都大阪紹介特集作り

#水都大阪　#地域広報　#魅力発信

目 的

メディア専攻で学んだことを活かしながら、実際に取材や記事作成の経験を通して得た知識を使って学生目線で大阪の新しい魅力を発見し発信する

活動の概要

- **主な連携先**
  一般社団法人日本自動車連盟（JAF）大阪支部／水都大阪コンソーシアム
- **活動地域**
  大阪市内
- **活動期間**
  2020年度
- **活動資金**
  なし

連携にいたる経緯

関西大学とJAF大阪支部の産学連携活動として、『JAFMate』やweb媒体を用いて共同で誌面を作成し、地域の課題解決に寄与することになった。

活動内容

「水の都」と呼ばれていた大阪の水辺の魅力を発見し、歴史や文化への理解を深め、観光促進につなげることは、『JAFMate』で水都大阪を紹介する特集を組む狙いだった。2020年3月に、ゼミ生たちはまず水都大阪コンソーシアム関係者のレクチャーを受け、水運に支えられ、経済と文化の中心都市として発展してきた大阪の歴史について勉強した。次にJAF大阪支部、水都大阪コンソーシアムの関係者と一緒に編集会議を行い、特集記事のイメージ、内容と取材先を決めた。2020年4月に大阪市中央公会堂、こども本の森 中之島、一本松海運などの施設や会社を取材する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、現地取材を取りやめ、すべてリモート取材に切り替えた。2020年6月に緊急事態宣言が解除され、TUGBOAT_TAISHO(タグボート大正)への現地取材と写真撮影が実現した。その後、記事を執筆し、JAF大阪支部の関係者とともに編集、レイアウト作業を行った。

活動の成果

- 取材・執筆した記事は『JAFMate』2020年8・9月(関西版)に掲載された
- 水の都・大阪の文化的、歴史的資源を再発見できた

今後の課題・目標・展開の可能性

- 引き続きJAF大阪支部と連携し、『JAFMate』やweb媒体にて学生目線での情報発信を行う
- 2021年度からスタートした、水都大阪コンソーシアムと連携した水の都大阪をPRする活動を続けていく

連携先からの一言

今回の活動は、新型コロナウイルスによる影響を大きく受け、記事内容の大幅変更、取材や打ち合わせ方法の変更など、試行錯誤をしながらのチャレンジとなりました。しかし学生たちはクオリティを低下させることなく“何事もなく”活動を続け、素敵な記事を完成してくれました。今後も産学連携を通した地域振興活動を一緒に続けて行きたいと思います。

(一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
大阪支部会員事業課)

社会学部　教授　劉　雪雁　Liu Xueyan

専門分野は国際メディア論。近年、訪日外国人観光客と地域活性化の関係について調査研究を行っている。

今城塚古墳クイズラリー「はにわたんけんたい」の開催

#地域観光振興　#クイズイベント　#歴史教育

目的

観光地として魅力的な場所が少なくないにもかかわらず、その知名度はあまり高くない
子ども世代が地元の歴史に親しむ機会をつくり、地域の魅力の発信につなげる

活動の概要

- **主な連携先**
  高槻市立今城塚古代歴史館／高槻市教育委員会／関西大学総合情報学部岡田ゼミ「はにたん」チーム
- **活動地域**
  大阪府高槻市
- **活動期間**
  2019年～2020年
- **活動資金**
  高槻市立今城塚古代歴史館（会場施設の提供）／関西大学総合情報学部実験実習材料費

連携にいたる経緯

地元小学生を対象として、地域の歴史や魅力に触れ親しむクイズラリーのイベント企画を高槻市の関係部局に持ち込んで相談したところ、今城塚古墳とその関連施設での開催の提案を受け、開催に至った。

活動内容

今城塚古墳公園および隣接する高槻市立今城塚古代歴史館を会場としたクイズラリーイベントを2020年9月19～22日の4日間にわたって開催した。市内在住の小学生を対象に、クイズを通して地元の歴史や魅力に触れてもらうことで、将来的な情報発信につながることをめざした。告知活動としては、教育委員会の協力を得て会場周辺の小学校4校に事前にチラシを配布した。実施に当たって、高学年と低学年でクイズの用紙や内容を別にして参加しやすい形式とし、イベントの参加賞として、はにわや勾玉づくりの体験コーナーを設置を予定していた。しかしながら2020年から始まったコロナ禍により、当初予定した3月の開催が9月に延期され、古代史関連グッズの製作体験コーナーも、クイズラリー完答者にマニュアルを同梱してキットを持ち帰ってもらう形に変更せざるを得なかった。

活動の成果

- 当初見込んでいた来場者数合計80名程度を大きく上回る200名近い小学生の参加をみた。
- 各日とも開館前の段階で事前に用意していた記念品の数を上回る入場待ち列ができるほどであった。

今後の課題・目標・展開の可能性

- 参加賞の記念品の用意した数を上回る参加者があり、十分な対応ができなかった。
- 事前のリサーチ不足のため、イベントの開催場所や実施内容について連携先との調整に手間取ってしまった。

総合情報学部　教授　岡田　朋之　Okada Tomoyuki

専門はメディア論、文化社会学。ゼミでは「メディアで社会を動かす」をテーマに据え、メディアの制作実践を通して社会を問い直すことを課題としている。

デジタルフリーペーパー
『関大生が行く JR穴場スポットぶらり旅』の制作

#地域の魅力の再発見　#マイクロツーリズム　#地域の食文化

目 的

"買"、"飲"、"食"の3つをテーマに、JR西日本の京都線、神戸線、大阪環状線の各線沿線の住民の方々に「電車に乗る新たな楽しみを提供したい」という思いを具体化して伝える

活動の概要

- **主な連携先**
  西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部アーバン未来づくりプロジェクト／株式会社JR西日本コミュニケーションズ／京阪神のJR沿線事業者など／関西大学総合情報学部岡田ゼミ（せんべろチーム、純喫茶チーム、土産チーム）
- **活動地域**
  大阪府大阪市・吹田市・茨木市・高槻市、兵庫県神戸市・西宮市
- **活動期間**
  2020年～2021年
- **活動資金**
  JR西日本コミュニケーションズ株式会社、関西大学総合情報学部実験実習材料費

連携にいたる経緯

数年前からおこなわれている当ゼミとJR西日本との連携事業が4年目を迎える中、折からのコロナ禍の下でより沿線地域の人々との連携を深めていきたいというJR側の意向を汲んで、新たな展開の可能性を探ることとなった。

活動内容

JR京都線、JR神戸線、JR大阪環状線の各沿線にある店舗を取材対象として、3つのテーマのもとに作成したオンライン上のデジタルパンフレットで紹介し、そのパンフレットの概要と、リンクのQRコードを印刷したチラシをJR西日本の京阪神主要駅で配架した。

3つのデジタルパンフレットの概要は次の通りである。

“買”「こだわりのお土産～幸せのお持ち帰り～」：主要ターミナル駅の売店や百貨店で売られている著名な土産品ではなく、その駅でしか買えない地元こだわりのお土産情報を提供。

“飲”「飲み方改革 ～“せんべろ”めぐり～」：二十歳になったばかりでお酒になじみのない若者を対象に、安く、美味しく、ひとりでも楽しめる酒場を紹介。

“食”「見逃せない喫茶店」：常連客以外には入りづらさがあるものの、レトロな雰囲気が漂う純喫茶店を楽しめる魅力を紹介。

活動の成果

- 取材先の各店舗について、それぞれの特徴をくみ上げて発信することができた
- コロナ禍におけるさまざまな制約下での情報発信の可能性を試みることができた

今後の課題・目標・展開の可能性

- 取材対象先について、よりコンセプトを明確にした絞り込みの下で交渉する
- SNSによる告知との連携をより強固に
- 感染拡大による行動制限などがある状況での取材活動と告知両面の課題

総合情報学部　教授　岡田　朋之　Okada Tomoyuki

専門はメディア論、文化社会学。ゼミでは「メディアで社会を動かす」をテーマに据え、メディアの制作実践を通して社会を問い直すことを課題としている。

沖縄県八重山地域における若年層の関係人口創出スキームの構築

#関係人口
#伝統文化の継承
#若年層の認知度向上

目的

さまざまなメディアを活用して活動対象地域に関する情報発信をおこなうことを通じ、当該地域への若年層の関心を深め、関係人口の形成につなげる

活動の概要

- **主な連携先**
  一般社団法人ゆんたくガーデン／沖縄県石垣市企画部／石垣島の各事業者／石垣島の伝統文化継承者のみなさん／沖縄県大阪事務所／大阪市内の沖縄物産店、沖縄料理関連飲食店等関連事業者
- **活動地域**
  沖縄県石垣市、竹富町、大阪府大阪市
- **活動期間**
  2021年～2022年
- **活動資金**
  地域連携活動に対する補助事業／一般社団法人ゆんたくガーデン（現地移動手段の提供、レクチャーやガイドツアーの実施）

連携にいたる経緯

都市部大学生を地域のアンバサダーとして受け入れ、若年層の関係人口を拡大するプロジェクトを計画していた石垣市の一般社団法人ゆんたくガーデンが、当ゼミにおける地域情報発信やイベント企画等の活動実績に着目して、連携事業の申し入れがあった。

「絆ぐ想い～石垣島の人々と伝統行事～」

動画はこちらより
ご覧ください→

活動内容

学生からの提案について、絞り込みをおこなった結果、次の3件のプロジェクトを実施した。

1)「泡盛×sweets」リーフレット：沖縄特産の焼酎である泡盛は、若年層、とりわけ女性にあまり馴染みがないとされるが、親しむきっかけとして石垣島島内で醸造されている泡盛を使ったスイーツ製品と自作できるレシピを紹介する。

2)「Minsah」リーフレット：八重山諸島伝統のミンサー織は非常に繊細な作業で作り上げられる高級感のある工芸品であるが、県外での知名度はあまり高くない。当制作物では、ミンサー織に込められたいにしえからのロマンチックな想いに焦点を当て、現代にも繋がるその魅力を伝える。

3)動画「絆ぐ想い　～石垣島の人々と伝統行事～」：八重山諸島に受け継がれる多くの伝統行事の中に込められた先人たちの願いや想いを探り、担い手の方々の語りを通じて、伝統行事に伝わる普遍的な思いを見つめるドキュメンタリービデオを制作する。

完成後に1)と2)は東京、大阪、石垣島の関連店舗や公共施設等に配架し、3)はYouTubeで配信をおこなった。

活動の成果

- 取材先の一部業者が積極的に宣伝告知に協力して下さるなど好意的な反響があった
- 「泡盛×sweets」は石垣市のふるさと納税返礼品に同梱された
- 従来にないユニークな視点や手法が評価され、今後も継続することが確認された

今後の課題・目標・展開の可能性

- 遠隔地のため取材の機会や期間が限られており、事前のリサーチをより充実させる必要がある
- 活動に参加した学生が卒業後も連携先と関係を継続できる環境の整備
- 印刷物や映像作品についてSNS等のメディアで周知をはかる取り組み

総合情報学部　教授　岡田　朋之　Okada Tomoyuki

専門はメディア論、文化社会学。ゼミでは「メディアで社会を動かす」をテーマに置き、メディアの制作実践を通して社会を問い直すことを課題としている。

HARVEST WEDDING
― 秋咲く小路でウエディングを ―

バルーンリリース（芝生広場）

#まちづくり　#公共空間　#ウエディング

目 的

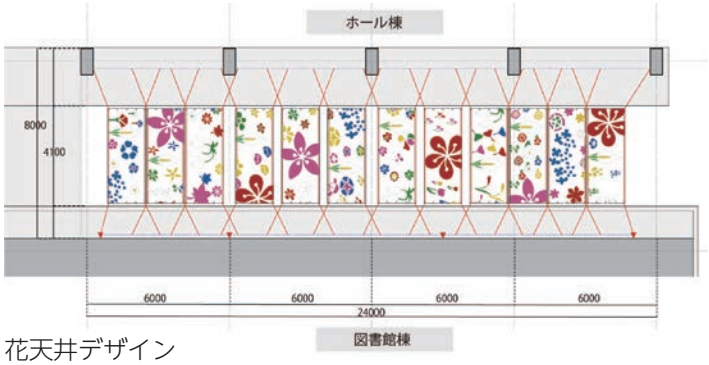
市民ワークショップで公共空間の使い方を募集し、そのアイデアを社会実装することを目的とする
さらに中山間地域が問題を抱える中、公共空間の運営を通してまちづくりにどのように大学が貢献できるのかを研究、実践する

やぶ市民交流広場 -YBファブ-

活動の概要

- **主な連携先**
  養父市／大阪夕陽丘学園短期大学／株式会社CALARS／関西大学都市設計研究室／阪急コンストラクションマネジメント株式会社
- **活動地域**
  兵庫県養父市
- **活動期間**
  2017年度～継続中
- **活動資金**
  地域連携活動に対する補助事業

花天井 制作風景



花天井デザイン

連携にいたる経緯

2016年、本学と養父市の包括連携協定の一環で、都市設計研究室を主宰する木下光教授が、養父市文化会館等建設基本構想委員会委員としてやぶ市民交流広場–YBファブ–の事業に参画。以降、都市設計研究室は、市民ワークショップ「養父を奏でる365符のマーチ～みんなでつくる365日の使いこなしカレンダー～」(2018年)、壁画アートプロジェクト(2019年)などの活動を通して、産官学の連携の中で学として積極的に参加・協力することになった。

集合写真（花天井下）

活動内容

ホール・図書館・公民館・公園機能を複合化したやぶ市民交流広場-YBファブ-が旧グンゼ工場跡地に建設され、オープニングイベントの一つとして2021年10月24日にHARVEST WEDDINGを実施した。養父市が主催で、挙式進行を大阪夕陽丘学園短期大学、その学生指導・プロデュースをCALARS（結婚式プロデュース会社）、空間設計を都市設計研究室、全体調整を阪急コンストラクションマネジメント株式会社が担う、産官学による共同事業である。挙式を図書館棟とホール棟間の小路で行い、芝生広場でバルーンリリース、まちかど広場で披露宴を行った。都市設計研究室は、小路に1mmメッシュ地の天井幕とそこから吊り下げる花で構成された花天井を制作した。天井幕は、-YBファブ-の工事用仮囲いとして活用した旧グンゼ工場ブロック塀に2019年、市民ワークショップで制作したアートプロジェクトの壁画を転写してデザインした。壁画は養父市・旧四町（八鹿・養父・関宮・大屋）の市花や町花と養父に咲く二十四節季の花が描かれている。実験を通して吊り下げ方法に工夫を凝らした花々が、バージンロードに生まれ変わった小路を終日美しく彩った。通りがかる市民も老若男女問わず花に触れ、一緒に祝い、公共空間本来の力を風景化できた。

活動の成果

- 公共空間の活用事例と公共空間の社会的役割の提示
- 学生の実践的な学びの場の提供
- 養父市及びやぶ市民交流広場-YBファブ-の情報発信の促進

今後の課題・目標・展開の可能性

- コロナ禍で中止となった収穫祭を実現し、次年度、収穫祭の中でのハーベストウエディングを実施する
- やぶ市民交流広場-YBファブ-の活動に継続的に企画参加し、公共空間の使いこなしを提案する
- 養父市と市民が協力して、やぶ市民交流広場-YBファブ-の企画運営を行っていく仕組みの構築

連携先からの一言

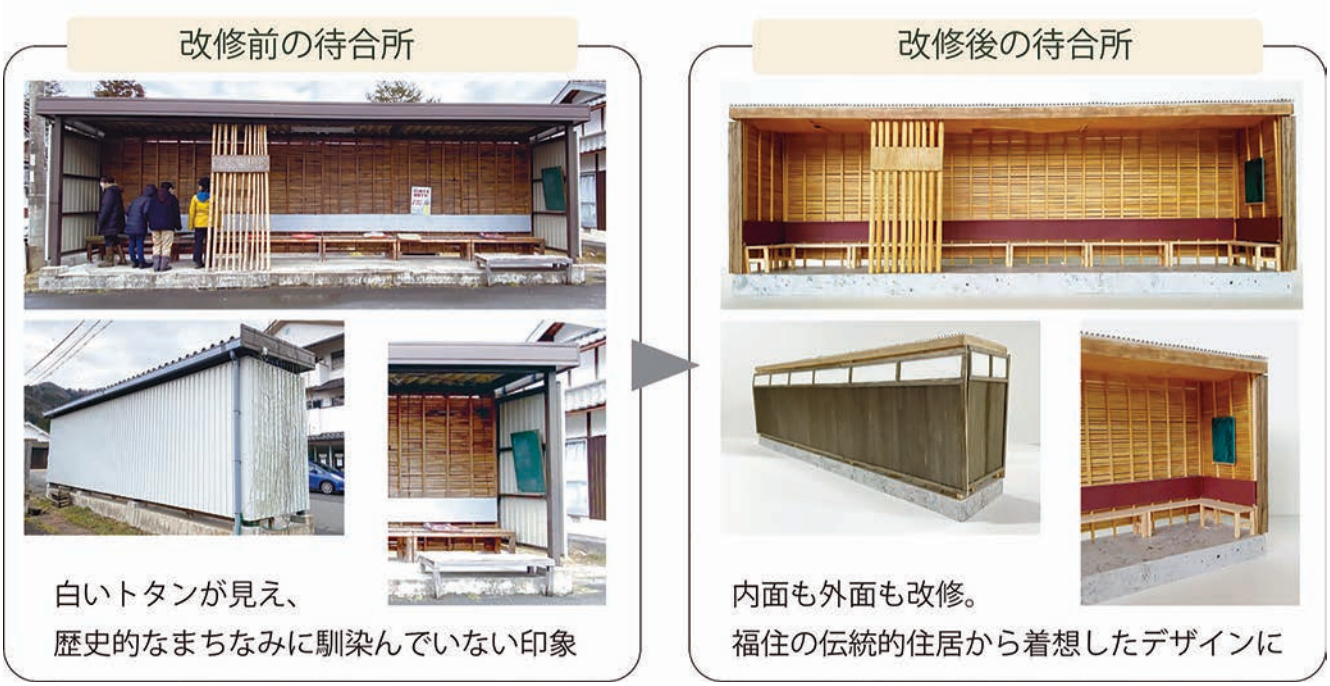
事業当初から多岐にわたりご支援いただき大変感謝しています。高校生のアイデアを実現するというこの企画。実現過程で課題ごとに丁寧に事前検証していただいたおかげで、新郎新婦に素敵な結婚式をプレゼントすることができました。

（養父市）

環境都市工学部　教授　木下　光　Kinoshita Hikaru

『モノ×ヒト＝コト』・『デザインを発見する研究、研究が導くデザイン-Research as Design, Design through Research-』・『土木・ランドスケープ・都市計画・建築を統合し、政策を空間化・時間化する都市デザイン』をコンセプトとし「アジアの食と公共空間」、「アジアのクールルーフ～素材からつくる住居」、「戦後日本の都市論」、「産業からみる都市・地域再生」の研究を行う。

竹資源を活用したまちなみデザイン（丹波篠山市福住）



竹のバス停　提案写真

#重要伝統的建造物群保存地区　#放置竹林　#地域住民参加型

目 的

丹波篠山市で課題となっている放置竹林の解決策として、間伐した竹材を重要伝統的建造物群保存地区のまちなみデザインに活用することを提案し、実践する

活動の概要

- **主な連携先**
  福住地区まちづくり協議会／篠山東雲高校／NPO法人SHUKUBA／丹波篠山市／関西大学住環境デザイン研究室
- **活動地域**
  兵庫県丹波篠山市
- **活動期間**
  2021年度～継続中
- **活動資金**
  地域連携活動に対する補助事業、丹波県民局からの活動助成

連携にいたる経緯

2016年に本学の住環境デザイン研究室の宮地茉莉助教が篠山東雲高校、丹波篠山市地域おこし協力隊と連携し、竹資源を用いたバス停待合所のデザインプロジェクトを企画し2020年までに3つの待合所を改修。2021年より住環境デザイン研究室も参画し、まちなみデザインの提案まで活動の幅を広げている。

活動内容

重要伝統的建造物群保存地区に選定されている丹波篠山市の福住地区において、課題となっている放置竹林の解決策として間伐した竹をバス停待合所の修景に用いることを提案、2022年にバス停「福住」待合所の改修を実施した。福住地区まちづくり協議会、篠山東雲高校、丹波篠山市地域おこし協力隊と住環境デザイン研究室が連携した高大地域連携活動であり、2022年度からは丹波県民局からも活動助成を得ている。

住環境デザイン研究室が中心となり、まちづくり協議会の協力の下、さまざまなワークショップを企画し、篠山東雲高校の生徒と共同で竹林の整備、竹の加工、バス停待合所の内壁の取り付け、割竹を座面としたベンチの製作を行なった。まちなみに対する提案ではまちなみデザインサーベイを高校生と実施し、「割竹を意匠に用いたプランター」の試作品を製作、高校の文化祭、福住伝建地区選定10周年記念フォーラムで展示した。

活動の成果

- 竹材の新たな活用法の提案
- 重要伝統的建造物群保存地区の修景
- 学生の実践的な学びの場の提供

今後の課題・目標・展開の可能性

- 竹資源を活用したまちなみデザインの新たな提案と実践
- 竹資源を用いたバス停待合所の維持改修の持続的な仕組みづくり
- 重要伝統的建造物群保存地区における高大連携活動の推進

連携先からの一言

高齢化、過疎化が進む'福住'の片田舎で、農具としての価値を忘れ去られた'竹'を活かす「竹のバス停プロジェクト」は、まちあるきや東雲高との交流を、報告会やまち協月刊誌により情報発信され、'福住'を活気づけています。

（福住地区まちづくり協議会より）

環境都市工学部　助教　宮地　茉莉　Miyaji Mari

国内外においてエンジニアが介入しないセルフビルド建築に関する調査・実践研究に取り組み、日本全国で竹資源を用いた農業ハウス（Bamboo Green-House）の普及活動・製作指導も行なっています。

食の魔女プロジェクト

#産地廃棄野菜問題解決　#産福学連携　#工賃とやりがい向上

目的

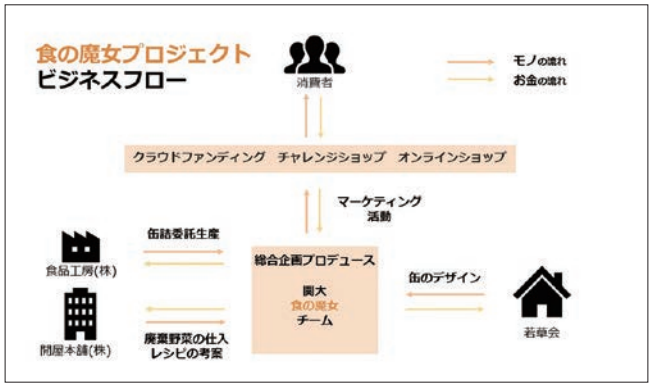
学生達がソーシャル・アントレプレナーシップを効果的に学ぶために、産地廃棄野菜問題と福祉の工賃問題に同時にアプローチするソーシャルビジネスを総合企画プロデュースした

活動の概要

- **主な連携先**
  開屋本舗株式会社／食品工房株式会社／社会福祉法人若草会
- **活動地域**
  富田林市を中心に大阪府内
- **活動期間**
  2021年度～継続中
- **活動資金**
  地域連携活動に対する補助事業／クラウドファンディング

連携にいたる経緯

ゼミ生たちが、①産地廃棄野菜問題、②非常食・保存食の廃棄問題、③障がい者の働き甲斐と工賃問題の3つの課題を解決するために、開屋本舗株式会社、食品工房株式会社、社会福祉法人若草会と協働して、「ちょっとリッチな海老芋ポタージュ」を共同開発することになった。



活動内容

専門演習を中心に、ゼミ生がソーシャル・アントレプレナーシップを効果的に学ぶために、文献研究とともに、地域の企業や福祉事業所と協働するソーシャルビジネスを企画して社会実装する取り組みを行った。具体的には、以下の活動内容で構成される。

(1)産地廃棄野菜、非常食大量廃棄、就労継続支援B型事業所の社会課題調査
(2)上記3つの社会課題にアプローチする新商品「ちょっとリッチな海老芋ポタージュ」スープ缶の企画立案
(3)市場および競合分析
(4)パートナー組織の開拓と協働
(5)ビジネスモデルの構築と各種マーケティング施策(STP＆4P)の最終決定
(6)試作品開発と、資金調達のためのクラウドファンディング準備
(7)クラウドファンディングの実施(9月16日～11月1日@GoodMorning)
(8)新商品「ちょっとリッチな海老芋ポタージュ」スープ缶の製品化

上記のプロセスで、ゼミ生達は数え切れないほどの打ち合わせをパートナー組織と行ってきた。打ち合わせ方法は、オンライン・対面・メールの形を取り、特に製品コンセプトの創造やデザイン企画、生産量と価格については、きめ細やかな対話に基づき決定している。

活動の成果

- 新商品「ちょっとリッチな海老芋ポタージュ」スープ缶の完成
- クラウドファンディングで、多くの方々の共感と支援を獲得(106人から71万1,200円のご支援)
- 約100kgの廃棄予定野菜を活用でき、障がい者の方々へやりがいのあるお仕事をお願いできた

今後の課題・目標・展開の可能性

- 食の魔女プロジェクトのブラッシュアップと継続
- より根本的な社会課題解決に向けたソーシャルビジネスの企画立案と展開

連携先からの一言

いろいろな考えを持った方と協働することは私も社会人になってから経験をして大変だなと感じることが多かったのですが(今もですが)、それを学生のうちから経験する場があり、ひとつの形にされたみなさんの力はすごい！と思います。

(社会福祉法人若草会)

たくさんいろいろな学びがありました。

(開屋本舗株式会社)

商学部　教授　横山　恵子　Yokoyama Keiko

調査現場において、既存の枠を打破して新価値創造に果敢に取り組む人々と触れあう中、アントレプレナーシップという生き方に魅せられるようになり、「ソーシャル・アントレプレナーシップと協働」を研究・教育活動の中核に置く。一般社団法人そばくりラボ代表理事。

衣の魔女プロジェクト

#廃棄衣料問題解決　#産福学連携　#工賃とやりがい向上

目的

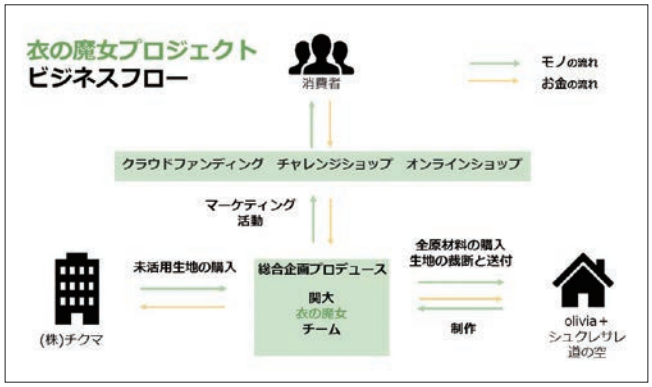
学生達がソーシャル・アントレプレナーシップを効果的に学ぶために、廃棄衣料問題と福祉の工賃問題に同時にアプローチするソーシャルビジネスを総合企画プロデュースした

活動の概要

- **主な連携先**
  株式会社チクマ／就労継続支援B型事業所のOLIVIA+、Chouchou、道の空
- **活動地域**
  大阪府内
- **活動期間**
  2021年度～継続中
- **活動資金**
  クラウドファンディング

連携にいたる経緯

「廃棄衣料問題」を検討する中で、意気投合した株式会社チクマとタッグを組み、その未活用生地をアップサイクルした新商品「WITCHILL(ウィッチル)」シリーズを開発した。商品製作は、福祉事業所に依頼して彼らの工賃向上につながるように計画した。



活動内容

専門演習を中心に、ゼミ生がソーシャル・アントレプレナーシップを効果的に学ぶために、文献研究とともに、地域の企業や福祉事業所と協働するソーシャルビジネスを企画して社会実装する取り組みを行った。具体的には、以下の活動内容で構成される。

(1)廃棄衣料と就労継続支援B型事業所の社会課題調査
(2)上記2つの社会課題にアプローチする新商品「WITCHILL(ウィッチル)」シリーズの企画立案
(3)アンケートを用いた市場調査および競合分析
(4)パートナー組織の開拓と協働
(5)ビジネスモデルの構築と各種マーケティング施策(STP＆4P)の最終決定
(6)試作品開発と、資金調達のためのクラウドファンディング準備
(7)クラウドファンディングの実施(9月10日～10月26日@GoodMorning)
(8)新商品「WITCHILL(ウィッチル)」シリーズの製品化

上記のプロセスで、ゼミ生達は数え切れないほどの打ち合わせをパートナー組織と行ってきた。打ち合わせ方法は、オンライン・対面・メールの形を取り、特に未活用生地の仕入価格や福祉事業所の工賃については、パートナー組織へのきめ細やかなアンケート調査に基づき決定している。

活動の成果

- 新商品「WITCHILL(ウィッチル)」シリーズの完成
  (3種類のバネ口ポーチと1種類のトートバッグの計4品)
- クラウドファンディングで多くの方々の共感と支援を獲得
  (111人から52万8千円のご支援)
- 未活用生地をアップサイクルでき、福祉事業所の工賃を従来の2倍以上にすることができた

今後の課題・目標・展開の可能性

- 衣の魔女プロジェクトのブラッシュアップと継続
- より根本的な社会課題解決に向けたソーシャルビジネスの企画立案と展開

連携先からの一言

学生さん達の熱意でいろんな点(環境や福祉)がつながっていったこと。そして何より社内で今回のプロジェクトに関心を持ってくれた人が多く、環境や福祉への取り組みにより前向きになっていけそうな雰囲気ができてきたことが大きな成果です。協働させていただきとても楽しかったです。
(株式会社チクマ)

意図が明確でそこに至るまでのプロセスや経緯がしっかり裏付けられていたので見習いたい点だと思いました。　(道の空)

学生さんが作業場まで出向いてくださり、自然体で笑顔を見せてくださって、作業場の全員がとても前向きに意欲的になれて、良い影響、良い風をあたえてくださったと感じています。　(Chouchou)

商学部　教授　横山　恵子　Yokoyama Keiko

調査現場において、既存の枠を打破して新価値創造に果敢に取り組む人々と触れあう中、アントレプレナーシップという生き方に魅せられるようになり、「ソーシャル・アントレプレナーシップと協働」を研究・教育活動の中核に置く。一般社団法人そばくりラボ代表理事。

福祉未来価値創造大賞2020プロジェクト

#産福学連携　#工賃とやりがい向上　#ソーシャルビジネス創造

目 的

関西の福祉事業所、企業、NPOとともに、商学部の横山ゼミと細見ゼミの3年生、計33名が、働く障がい者の工賃やモチベーション向上、企業のSDGsへの取り組みの推進といったことを目指して、福祉未来価値創造大賞2020（主催：NPO法人Deep People）の企画に挑戦した

活動の概要

- **主な連携先**
  NPO法人Deep People／社会福祉法人 青葉仁会／あゆみ工房／
  就労継続支援B型事業所 三休／縁樹の糸プロジェクト／JAMMIN合同会社
- **活動地域**
  関西地域
- **活動期間**
  2020年度
- **活動資金**
  なし

連携にいたる経緯

福祉未来価値創造大賞は、福祉事業所と企業の協働を推進して、付加価値の高い、新しい取り組み（ソーシャルビジネス）を生み出すことを目的に開催されている。2020年度は、横山ゼミと細見ゼミが全面参加する新しい枠組みで動き出した。特に、「with コロナ」の厳しい状況下だからこそ、「新型コロナウイルスに打ち勝とう」をスローガンに、新たな商品・サービスを生み出すため、福祉事業所・企業・NPO・大学が連携した「福・産・N・学」のコラボ・プロジェクトとなった。

活動内容

学生たちはグループに分かれて、ソーシャルビジネスの企画案をつくり、福祉事業所や企業・NPOの方々に披露。それらをもとに継続的に、福・産・N・学のオンライン打ち合わせが行われ、6つのプロジェクトが実現に向けて動いた。その結果、「バーチャル背景ギャラリー」や、「縁樹の糸 森をまとうマスク」の企画が実現した。これらのプロセスと成果について、学生達は成果報告プレゼンテーションにまとめ上げ、11月20日(金)に開催された「福祉未来価値創造大賞2020(主催：NPO法人Deep People)」で発表。ソーシャルビジネスプラン部門大阪府知事賞大賞などを受賞した。

活動の成果

- 福祉の現状を理解して、ソーシャルビジネス企画を創造することができた
- いくつかのプロジェクトは企画に留まらずに、事業化することができた

今後の課題・目標・展開の可能性

- 学生との共同調査(若年層にとっての魅力や働きやすさを高める条件)に協力して頂ける企業・事業所と連携していくこと

連携先からの一言

これまでの福祉事業所と企業の協働に、新たに学生が参画してくれたことで、事業所も企業もモチベーションが高まり、学生らしい着眼点で新たな提案が出されたので、福・産・N・学の協働の可能性が広がりました。

(NPO法人Deep People)

商学部　教授　横山　恵子　Yokoyama Keiko

調査現場において、既存の枠を打破して新価値創造に果敢に取り組む人々と触れあう中、アントレプレナーシップという生き方に魅せられるようになり、「ソーシャル・アントレプレナーシップと協働」を研究・教育活動の中核に置く。

商学部　准教授　細見　正樹　Hosomi Masaki

ワーク・ライフ・バランスやテレワークを研究。ゼミでは、質問紙調査やビジネスプラン作成等により、学生が将来のキャリアを考える場づくりをしている。

福祉×学生×お笑いによる ソーシャルプロダクツ啓発ツール作成

#福祉

目 的

お笑いの力を借りて、学生と障がい者が力を合わせて、ソーシャルプロダクツ啓発ツール(動画啓発資料)を作成することで、参加者間の相互理解と創造性を育む

活動の概要

- **主な連携先**
  吉本興業株式会社 フランポネ(マヌー島岡氏、シラ氏)／藤田ゆみ氏
  社会福祉法人若草会／就労継続支援B型事業所(OLIVIA+、Chouchou、道の空)／株式会社チクマほか
- **活動地域**
  大阪府
- **活動期間**
  2022年6月～2023年3月
- **活動資金**
  地域連携活動に対する補助事業

連携にいたる経緯

学生が、福祉事業所や企業と協働してソーシャルプロダクツ(魔女プロダクトの各種商品)を創造した。それらの効果的なPRツールを作成するプロジェクトであるが、お笑いの力を借りながら福祉と学生が交流し、多様性理解や創造力を育むことも企図された。

活動内容

吉本興業株式会社に所属するフランポネ（マヌー島岡氏、シラ氏）、藤田ゆみ氏は、漫才でSDGsの啓発を図っている。5月～6月に彼らと一緒に企画を練り、6月24日の半日以上をかけて、福祉×学生×お笑い×地域企業による「魔女プロジェクトの漫才CMづくり」を行った。

3時限目にごちゃまぜのチームを作り即興漫才のつくり方を学び、4時限目にチームごとに漫才CMの台本づくり、5時限目にネタ練習とCM動画撮影を行った。

当日、お笑いの力による各種効果について、アンケート調査も実施して、参加者の高い満足度と想像力・創造力の向上をはじめとするプラスの効果が測定された。

7月にCM動画が完成して、百貨店やイベント販売で活用した。その成果の一部については、そばくり博覧会という全国規模の合同ゼミナールで発表され、研究論文の形にもまとめられた。

活動の成果

- お笑いの力を用いて、福祉事業所の方々と学生が深く交流して多様性理解が促進された
- 効果的なソーシャルプロダクツ啓発ツールを作成・活用することができた
- 学生たちの想像力・創造力が高まった

今後の課題・目標・展開の可能性

- 学生を中心に、多様性理解を育む様々な協働プロジェクトの展開
- お笑いの力を借りて、学生の想像力や創造力を高める継続的なプロジェクトの展開

商学部　教授　横山　恵子　Yokoyama Keiko

調査現場において、既存の枠を打破して新価値創造に果敢に取り組む人々と触れあう中、アントレプレナーシップという生き方に魅せられるようになり、「ソーシャル・アントレプレナーシップと協働」を研究・教育活動の中核に置く。一般社団法人そばくりラボ代表理事。

男山地域まちづくり連携協定

#外国語　#異文化　#多文化共生

目的

グローバル化の進展に伴い外国人住民の数が増加している中で、日本人住民と外国人住民が互いの言語と文化を理解しながら共生できることを目標に活動している

活動の概要

- **主な連携先**
  京都府八幡市／独立行政法人都市再生機構
- **活動地域**
  京都府八幡市
- **活動期間**
  2021年～継続中
- **活動資金**
  受託研究費

連携にいたる経緯

八幡市との協定により、環境都市工学部の江川直樹名誉教授と大影佳史教授が「住みたい、住み続けたい」街作りで多くの成果を上げておられました。そこで私のゼミ活動を通じて、言語・文化領域でも貢献させていただきたく思い、連携に参加させていただきました。

活動内容

外国人住民の持つ多様な言語文化は貴重な資源であり、八幡市民にとってはグローバル世界の一端に触れる機会にもなります。そこで、ゼミ生と共に彼らの言語や文化に触れるワークショップを企画しました。第一弾では外国人住民の中で最多を占めるベトナム人を対象とし、市民にベトナムの言語や文化に関心を持ってもらうことを目的とする「Xin chào八幡」を実施しました。

イベントでは、ベトナムについて簡単な歴史を踏まえながら紹介したのち、八幡市在住のベトナム人の協力を得ながらベトナム語の紹介をしました。ベトナム語に馴染んでもらうために、来場者全員にゲームに参加してもらいました。予想を上回る白熱した展開となり、皆様には楽しみながらベトナム語に馴染んでいただけたようです。ベトナム人参加者のコメントも交えながら、料理や生活様式などの紹介も行いました。

さらに、幅広くベトナムの言語と文化に関心を持ってもらうために、市民向けにリーフレットを作成し、市役所の協力のもと市内の各所で配布してもらいました。

活動の成果

- ベトナムの言語・文化を紹介する「Xin chào八幡」の実施
- ベトナムの言語・文化を紹介するリーフレットを作成し市民に配布

今後の課題・目標・展開の可能性

- 英語を含めて、多様な言語・文化に楽しみながら触れるイベント
- 市民が外国の言語・文化に興味を持ち、自発的に活動するためのサポート
- 複言語主義に関心がある自治体や団体などとの連携

連携先からの一言

本市の外国人住民が増加する中、高橋ゼミとの連携により、外国人住民との相互理解を深めるための第一歩となる取組を実現することができました。引き続き、共生社会の実現に向け、ご協力をお願いいたします。

（八幡市役所）

外国語学部　教授　高橋　秀彰　Takahashi Hideaki

専門は社会言語学、言語政策論。移民を対象とする言語教育、グローバル化における機械翻訳の活用、国家・地域における言語政策などに関心を持っている。

幼児の運動能力向上に係る事業

#幼児　#運動遊び　#運動能力

目的

幼児が幼稚園、保育所または家庭等で多様な動きを体験して運動能力の向上が図られるよう、幼児の運動機能に関する保育者の理解を深め、支援方法を習得する

活動の概要

- **主な連携先**
  堺市教育センター能力開発課幼児教育グループ／大阪国際大学短期大学部幼児教育学科講師 玉井久実代氏
- **活動地域**
  堺市内
- **活動期間**
  2020年度～継続中
- **活動資金**
  堺市と関西大学との地域連携事業

連携にいたる経緯

2019年に堺市教育センターより、遊びを通して幼児の運動能力の向上を図りたいという要請を受け、連携に至った。

活動内容

本事業は、講義と実技で構成されている。

講義では、「幼児の運動能力を高める運動遊び」と題して、現代っ子の特徴、運動遊びの効果、幼児の身体活動量および運動能力が幼児の性格に及ぼす影響等について、データを用いて詳細に解説した。

実技では、はじめに「幼児は毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすこと」が重要であること、その際には、①様々な遊びによって多様な動きを経験すること、②楽しく体を動かすこと、③発達に応じた遊びを提供すること、といった文部科学省の「幼児期運動指針」を基に解説した。その後、幼児期に身につけておきたい36の基本的な動作(立つ、起きるといったバランス系の動作、歩く、走るといった移動系の動作、持つ、支えるといった操作系の動作)を解説し、「遊びが運動に、運動が遊びに」という方針の下、様々な運動遊びによって多様な動きを紹介した。

活動の成果

- 講義では、幼児の運動能力の向上には、幼児が「運動することは楽しい」と思える指導の工夫が重要であることが分かった
- 実技では、様々な体の動かし方や一つの運動遊具で多様な動きを体験し、支援方法を習得することができた
- 講義と実技があることによって研修が深まった

今後の課題・目標・展開の可能性

本事業の一つに「保護者と子ども対象の講習会」が企画されている。これは、幼稚園または保育所に出向き、親子で楽しむ運動遊びを紹介する事業である。2020年度は一つの幼稚園から希望があったが、緊急事態宣言中のため中止となった。2021年度以降は是非取り組みたい。

連携先からの一言

幼児の運動機能の発達に関する講義とともに実技があることで、保育者が実際に多様な動きを取り入れた運動遊びを体験することができ、幼児期における効果的な運動遊びに対する理解が深まった。

(堺市教育委員会事務局
教育センター　能力開発課)

人間健康学部　教授　涌井　忠昭　Wakui Tadaaki

人間健康学部では、レクリエーション支援論、福祉レクリエーション論等の授業を担当。前任校では、幼稚園教諭および保育士養成の教育に従事し、「小児体育Ⅰ・Ⅱ」、「保育内容研究Ⅲ(健康)」(当時)を担当していた。

考古学への誘い
～高槻市夏休み子ども大学におけるワークショップの実施～

#文化財の活用

目的

児童の考古学や文化財への関心を高めるとともに、ワークショップの企画・運営を通して、文化財の保存と活用に携わる人材を育成する

活動の概要

- **主な連携先**
  高槻市／関西大学文学部考古学研究室
- **活動地域**
  大阪府高槻市 クロスパル高槻（高槻市立総合市民交流センター）
- **活動期間**
  2016年度より隔年で実施継続中（2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて中止、代わりに2021年度に実施）
- **活動資金**
  高槻市／関西大学

連携にいたる経緯

文学部考古学研究室は、考古学の研究成果を社会に還元すること、これからの社会に通用する学芸員を育成することが社会的責務であると考え、種々の活動を行ってきた。本ワークショップはその一環として、高槻市と本学との地域連携に関する協定に基づき実施した。

活動内容

本イベントでは、児童の考古学に対する関心を高めるための3つのプログラムを実施した。

①紙芝居

はじめに、本研究室の学生が制作した奈良県明日香村に所在する川原寺に関する紙芝居を上演した。紙芝居は、本研究室が過去に発掘調査を実施した川原寺裏山遺跡の調査成果に基づく内容であり、川原寺に関する知識だけでなく、考古学や発掘調査に関しても学ぶことができるものとなっている。

②クイズ

次に、紙芝居の内容を振り返ることを目的とした4択形式のクイズを実施した。本イベントは低学年の部と高学年の部に分けて実施したが、対象学年によって回答の選択肢を変えることで、難易度の調整を行うなどして、積極的な参加を促すよう努めた。

③塼仏(せんぶつ)・瓦づくり体験

上記2つのプログラムを通して得た塼仏や古代瓦の知識をふまえ、それらの製作方法についても学んでもらうため、製作体験を実施した。学生は単なる製作補助だけでなく、参加児童や保護者と積極的にコミュニケーションを図り、参加者同士の交流も生まれるように工夫した。

活動の成果

- 総合的なプログラムによって、参加者の考古学に対する関心が高まった
- ワークショップの企画・運営を通して、参加学生が文化財活用のノウハウを学んだ

今後の課題・目標・展開の可能性

- 過去の改善点を組み込んだ新しいプログラムの創出
- 学習者のニーズを把握するための実施調査
- ワークショップの企画・運営を経験した学芸員、埋蔵文化財担当技師等の輩出

文学部　教授　米田　文孝　Yoneda Fumitaka

仏教が日本に来た道をもとめて約25年、仏教のはじまりの地であるインド共和国で調査を行ってきた。その後、ユーラシア大陸を東にすすみ、仏教が日本で最初におこった奈良県の飛鳥の地にたどり着く。倭国・日本国の都であった飛鳥の姿を一度目にしたいと夢想している。

「水都大阪」の魅力の再発見、近場で非日常を楽しむ ～東横堀川PRプロジェクト

#水都大阪　#東横堀川　#魅力発信

目 的

大阪で一番古い堀川である東横堀川は、高速道路に覆われているため認知度が低い
この地域の魅力を掘り起こし、若者の認知度を高めることで、地域の活性化につなげる

活動の概要

- **主な連携先**
  水都大阪コンソーシアム／e-よこ会（東横堀川水辺再生協議会）
- **活動地域**
  大阪市東横堀川界隈
- **活動期間**
  2021年7月～2022年3月
- **活動資金**
  地域連携活動に対する補助事業

連携にいたる経緯

2020年度に関西大学とJAF大阪支部の産学連携活動として、『JAFMate』やweb媒体を用いて水都大阪を紹介する誌面を作成したことをきっかけに、水都大阪コンソーシアムと連携し、大阪の水辺の魅力を若者に伝える企画を展開するようになった。

活動内容

2021年

5月～6月　資料調査、フィールドワーク及びe-よこ会、水都大阪コンソーシアムの関係者への聞き取りを通じて、東横堀川地域の歴史や現状を把握し、地域への理解を深めた。

7月～9月　東横堀川界隈のイベントに参加。2021年夏にオープンした水辺施設β本町橋、東横堀川水門事務所、結納関連用品専門店の澁谷利兵衛商店、山本能楽堂を取材し、関係者へのインタビュー動画を撮影し、サップからの水上の景色も撮影した。

10月～11月　東横堀川のオリジナルキャラクター(「ひがよこくん」)をデザインし、ステッカーを作成した。取材映像の編集作業を進めた。

12月　外国人留学生エキスポ2021(12月4日)、2021年度水都大阪アカデミア(12月18日)で成果報告を行った。

2022年

3月　β本町橋で開催された「第1回東横堀川 川びらき」で、東横堀川PR映像の上映会と制作秘話に関するトークショーを実行し、JCOMの取材を受けた。

活動の成果

- 若者向けに水辺の魅力を伝えることができ、東横堀川地域の方々との交流も深められた
- 水都大阪の歴史と発展への理解が深まった
- 活動に関わった学生たちの取材力、コミュニケーション力、情報発信力が向上した

今後の課題・目標・展開の可能性

- 引き続き水都大阪コンソーシアムと連携し、学生目線で水の都・大阪の魅力を発信していく
- フィールドワーク、取材、聞き取り、映像制作のプロセスや方法を再検討し、その経験や教訓を今後の活動に生かす
- プロジェクト終了後も、学生たちが継続的に活動地域と関われる環境を作っていく

「東横堀川魅力発信動画
～関西大学社会学部メディア専攻　劉ゼミ作成～」

動画はこちらより
ご覧ください
↓

連携先からの一言

若い新鮮な視点で地域の魅力がぎゅっと詰まった素敵な動画を作ってくださいました。取材や撮影にまちぐるみで協力でき嬉しく思います。またいつでも遊びに来てくださいね！
(e-よこ会(東横堀川水辺再生協議会))

社会学部　教授　劉　雪雁　Liu Xueyan

専門分野は国際メディア論。近年、訪日外国人観光客と地域活性化の関係について調査研究を行っている。

若者向けに「水都大阪」の魅力発信
～中之島を中心とするアート散歩プロジェクト

#水都大阪　#中之島　#魅力発信

目 的

中之島にある美術館をはじめとする複数の文化施設は、若者の認知度があまり高くない
美術館・博物館などの文化施設に興味を持たせ、地域の歴史や文化への関心を高めることにつなげる

活動の概要

- **主な連携先**
  水都大阪コンソーシアム／中之島エリアの各文化施設
- **活動地域**
  大阪市中之島エリア
- **活動期間**
  2022年5月～2023年2月
- **活動資金**
  地域連携活動に対する補助事業

連携にいたる経緯

2020年度に関西大学とJAF大阪支部の産学連携活動として、『JAFMate』やweb媒体を用いて水都大阪を紹介する誌面を作成したことをきっかけに、水都大阪コンソーシアムと連携し、2021年度に東横堀川PRプロジェクトで協力関係をさらに強化した。

活動内容

2022年

5月～6月　資料調査、大阪歴史博物館、中之島香雪美術館で開催された水都大阪の歴史に関する展覧会見学を通じて、水の都・大阪の歴史への理解を深めた。

7月～9月　大阪中之島美術館、大阪市立科学館、国立国際美術館をはじめ、中之島エリアでフィールドワークをした。大阪大学総合学術博物館、大阪市中央公会堂、子ども本の森 中之島、一本松海運(株)を取材し、関係者へのインタビュー動画を撮影、中之島リバークルーズの船上から夜景の撮影をした。第2回外国人留学生エキスポ2022(7月30日)で中間発表した。

10月～12月　「中之島アートおさんぽマップ」とウェブサイトの作成、オリジナルキャラクター(「アルテくん」)のデザイン、取材映像の編集作業を進めた。
2022年度水都大阪プレアカデミア(11月5日)で中間報告を行った。

2023年

1月　「中之島アートおさんぽマップ」とウェブサイト、オリジナルキャラクター(「アルテくん」)のステッカーを作成した。

2月　2022年度水都大阪アカデミア(2月25日)で成果報告を行った。

ウェブサイトは
こちらより
ご覧ください→

活動の成果

- 若者向けに中之島の文化施設の魅力を伝えることができた
- 中之島の歴史と発展への理解が深まった
- 活動に関わった学生たちの取材力、コミュニケーション力、情報発信力が向上した

今後の課題・目標・展開の可能性

- 引き続き水都大阪コンソーシアムと連携し、学生目線で水の都・大阪の魅力を発信していく
- よりユニークで効果的な情報発信の方法を模索していく
- プロジェクト終了後も、学生たちが継続的に活動地域と関われる環境を作っていく

連携先からの一言

水辺の魅力を発掘し「近場で非日常を楽しむスタイルの提案」をコンセプトに、フィールドワーク・インタビュー等を学生自身が主体的に実施し、水都大阪のファンとなりプロジェクトを推進してくれたことに感謝です。

(水都大阪コンソーシアム)

社会学部　教授　劉　雪雁　Liu Xueyan

専門分野は国際メディア論。近年、訪日外国人観光客と地域活性化の関係について調査研究を行っている。

若者の視点からの民間スポーツクラブに対する集客企画の提案

#コロナ禍　#健康　#スポーツ産業

目的

コロナ禍によって活動を阻害されてきた身体活動のうちスポーツクラブ事業に焦点を当て、若者の視点からその再活性化を提案する

活動の概要

- **主な連携先**
  株式会社関西テレビライフ／阪急阪神不動産株式会社
- **活動地域**
  大阪府北部
- **活動期間**
  2022年～継続中
- **活動資金**
  なし

連携にいたる経緯

スポーツクラブ事業に対するコロナ禍の影響への対策を検討されていた関西テレビライフと、スポーツ振興の現場での学修経験を求めていた人間健康学部の西山ゼミが、阪急阪神不動産株式会社による仲介のおかげで出会い、活動が開始された。

活動内容

民間スポーツクラブは、数年前からのコロナ禍によって利用客が急減するなどの被害を受けてきた。その一方で、同じコロナ禍によって人々の健康意識は以前より高まりを見せている。この「ねじれ」現象をポジティブに解消すべく、大阪府茨木市にある関西テレビライフ傘下のスポーツクラブを対象に、既存の常識にとらわれない若者の視点から学生による集客企画を提案した。

具体的には、2022年2月から準備を始め、同年4月以降に学生による施設見学と参与観察、アンケート調査などを行い、その成果を7月と12月に発表した。その提案の一部は対象クラブによって既に採用されている。

活動の成果

- インターネットとスマートフォンが織りなす情報環境に慣れた学生の視点から広告宣伝活動に関するアドバイスを行い、その一部が採用された
- 従来、スポーツクラブで行われる活動ではなかったイベントやゲームについて、若者にとっての魅力を説明したうえで、集客案として提案を行った
- スポーツクラブ以外の他業種との協同について、既存の試みを参考に、スポーツクラブの魅力を補強するものとして提案した

連携先からの一言

学生の皆さんが熱心、真剣に考え、行動されたことに感銘を受けました。最終発表会には社長以下、全事業所の支配人が出席させていただきました。たいへん参考になる提言も多く、早速採用させていただいたものもあります。可能であれば、来年度以降もプロジェクトを継続していただきたく考えているところです。

（株式会社関西テレビライフ
代表取締役社長）

今後の課題・目標・展開の可能性

- 民間スポーツクラブの事業がコロナ禍から回復基調にあるなかで、その社会的価値を高めるために、さらなる集客企画や活動企画を考えたい
- スポーツクラブ事業の枠を超え、文化振興や社会貢献といった方面にもスポーツ活動を拡大、発展するための方策を学生たちと検討したい

人間健康学部　教授　西山　哲郎　Nishiyama Tetsuo

社会学をベースに、スポーツを含んだ身体活動を文化現象として捉え、それらに対する人々の感じ方や価値観の変動について研究している。

特定非営利活動法人 関西大学カイザーズ
総合型地域スポーツ・文化クラブ

#青少年の健全育成　#社会におけるコミュニティ作り　#健康で豊かな生活

目 的

大学の知財・人財・施設を活用した地域貢献活動やスクール活動、イベント事業を実施することで、将来の学生確保やその掘り起こしに寄与し「関西大学のファン」を増やす

活動の概要

- **主な連携先**
  地域住民／関連企業・NPO法人／関西大学学生・教職員
- **活動地域**
  関西大学千里山キャンパス・高槻キャンパス・梅田キャンパス／大阪府北摂地域 他
- **活動期間**
  2015年度～継続中
- **活動資金**
  スポーツ・文化スクールでの活動収益／賛助会費 等

連携にいたる経緯

大学と地域住民が企画・運営する学社融合型の活動団体の設置を目指し、本学の創立130周年記念事業の一つとして設置された。

活動内容

1. 総合型地域スポーツ・文化クラブの運営

サッカー、アイスホッケー、チアダンス、体操、バスケットボール、テニスに加え2021年度新たに卓球スクールを開講し、7つのスポーツスクールとフィギュアスケートクラブ(関西大学KFSC)を運営し、地域に根ざしたNPO法人として「青少年の健全育成」等、地域課題に取り組む活動を行った。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、対面でのスクール活動を休止する期間はあったが、オンラインレッスンやYouTubeへの動画掲載、SNSによる情報発信等を積極的に実施し、コロナ禍における新しい形の活動を進めている。

2. 大学をより身近に感じるイベントの実施

地域のためのお祭りイベント「まちFUNまつり」を開催。「地域のみなさんや子供たちの喜ぶ顔をみたい！」そんな思いから手探りでカイザーズクラブ設立時から開催し、今や地域恒例行事として定着しつつあるイベント。

毎年、新たなコンテンツを追加し、直近では本学SDGsキャンパスサポーターと協力し、子供たちにSDGsをわかりやすく説明したポスター17枚をキャンパス各所に配置し、キーワードを集める「SDGs文字集めラリー」を実施。文字集めラリーには1,700人を超えるたくさんの方々が参加され、景品で配布した関大オリジナルグッズを手に喜ぶ姿が印象的だった。

活動の成果

- サッカー、アイスホッケー、チアダンス、体操、バスケットボール、テニス、卓球のスクールとフィギュアスケートクラブの運営。スクール会員数448名(2021年3月時点)
- 企画段階から学生・教職員・地域住民が参画して開催する地域交流イベント(まちFUNまつり)の開催。参加者数約7,000名。※2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症により中止
- キッズミュージアム、マラソンイベント、スポーツフォーラムに加え、子供たちと大学生が文武両道を実践するカイザーズFactoryの開催。
  ※2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症により中止

今後の課題・目標・展開の可能性

- 地域コミュニティ活動の活性化・再生を目指す活動の実施
- スポーツ・文化活動を楽しむ人々の増加や満足度向上を目指すイベントの実施
- 地域住民・校友・保護者が「目的を持って大学に通う」枠組みづくりの実現

特定非営利活動法人　関西大学カイザーズ総合型地域スポーツ・文化クラブ　(通称：関西大学カイザーズクラブ)

地域住民に対しスポーツ・文化への多様な関わり方を通して、新たなライフスタイルを提案し、クラブライフを通して心身の健康だけではなく、健やかで幸せな暮らしの「健幸」づくりに貢献し、青少年の健全育成のために、目標をもって、さまざまな分野に挑戦できる活動の場を提供している。 スポーツと文化の融合による新しい文化を創造し、地域社会との連携事業を通して、地域の活性化に寄与することを目的とする。

地域商業・産業振興・まちづくり・商品開発等に関する研究調査および研究発表（ゼミナール活動）

#商品開発　#マーケティング　#地域活性化

目的

地域や現代社会の抱える課題について調査・研究し、研究発表活動を通じて学生の主体性、研究能力、プレゼンテーション能力を醸成する

活動の概要

- **主な連携先**
  日高製菓／徳島県三次市／いちにち文庫実行委員会（徳島県三次市）／JA／十三子ども0円食堂／守口子ども食堂まんぷく食堂／パソナ／大丸／松坂屋／amaサラダ／ひらかたパーク／基山モール商店街（佐賀県）／ちびはる保育園（佐賀県）／健軍商店街（熊本県）／和歌山大学経済学部足立ゼミ／近畿大学総合社会学部ふせのわ／関関COLORS／関大前ラボラトリ／フードバンク大阪／マルハニチロ株式会社／吹田市
- **活動地域**
  近畿、九州、四国エリア
- **活動期間**
  2017年度～継続中
- **活動資金**
  経済学部 近畿圏以外での研究発表活動に対する補助金
  （2020年度および2021年度はコロナ禍のため適用なし）

連携にいたる経緯

ゼミナールでは、地域商業の現状と活性化、企業のマーケティング活動等について学び研究してきた。これらのテーマの解明にはフィールド調査が必要であり、ゼミナール生はさまざまなフィールドに出て現地調査を進めている。そのような調査に、多くの事業者や団体、自治体等の皆様が協力してくださっている。

活動内容

地域においてフィールド調査を行い、そこから得られた内容を精査し、各種の学生研究発表大会で成果発表をしている。2019年と2020年には地域の事業者とコラボレーションし、実際の商品開発にも取り組んだ。前者は野菜市場の拡大を目的としたコールドプレスジュース(尼崎市の専門店と連携)、後者は「なにわの伝統野菜」の市場開拓を目的としたジェラート(大阪市の専門店と連携)について商品開発し、それぞれ販売活動やプロモーション活動を実施し、その研究成果についてプレゼンテーション大会で発表した。

その他、大学やゼミが商店街の空き店舗を活用して行う活動(関西大学関大前ラボラトリを含む)やフードバンクおよび子ども食堂、地域に書店がなくなった「無書店地域」、ひらかたパークを対象とした地域密着型レジャー施設、ユニバーサルデザインフード(UDF)のマーケティング、大学生協食堂の食品ロス対策、城崎温泉を対象とした地域一体型温泉地域の活性化に関する調査研究など、地域に目を向けた研究を継続して展開している。

活動の成果

- 2019年度アグリカルチャーコンペティションのブロック優勝
- 2020年度アグリカルチャーコンペティション「実践的研究分野」最優秀賞＆学生投票最多得票賞
- 2020年度アグリカルチャーコンペティションブロック優勝、審査員特別賞

今後の課題・目標・展開の可能性

- 地域商業活性化に向けた具体的な提言
- 地域活性化に貢献する商品開発
- 地域が抱える諸課題に対する学生の気づきの喚起

経済学部　教授　佐々木　保幸　Sasaki Yasuyuki

日本とフランスの流通政策研究を専門としている。最近は商業(ボランタリーチェーン)と協同組合の特質を併せ持ったフランス独自の商業の発展についても研究を進めている。

富山県射水市におけるへちまSDGs活動の推進：地方発グローバルSDGs活動の展開

へちま畑の視察 収穫方法などの学習

ヘチマの現物を手に取り、どのような製品が考案できるかを議論

#SDGs　#へちま

目 的

以下に示すようなSDGs推進の目的に加え、地域特産物であるヘチマを使った製品の販路拡大を図ることにより、農村の地域振興を図る

へちま産業、社長の瀧田秀成氏と、メンバー全員で集合写真

活動の概要

- **主な連携先**
  池田葵（商学部・3回生）、山本莉子（商学部・3回生）、
  三品涼帆（人間健康学部・3回生）
  瀧田秀成氏（へちま産業・社長）
- **活動地域**
  富山県射水市、大阪府大阪市
- **活動期間**
  2021年～継続中
- **活動資金**
  地域連携活動に対する補助事業

連携にいたる経緯

商学部・小井川研究室では、身近なアイテムを使ったSDGsビジネスモデルの構築を模索している。自然に還る有機的特性を持つヘチマのSDGs親和性と有効性に着目し、へちま産業との産学連携を打診し、実際に富山県射水市の加工場を訪れ、連携に至った。

食用ヘチマ栽培と、そのレシピを議論

へちま水の貯水タンクの視察
実際の貯水方法と、どれくらいの在庫があるのか、回転率などを確認

活動内容

小井川研究室は、SDGsビジネスモデル構築の一つとして、ヘチマの有用性と将来性に着目した。かつてヘチマは、たわしとして日本の多くの家庭で使われていたのだが、安価で簡便なスポンジたわしに駆逐されてしまった。しかしながら昨今、スポンジたわしから出るマイクロプラスチック、および使用後のスポンジが海洋汚染の原因となっていることが指摘され、有機的特性により自然に還る性質を持つヘチマのSDGs的優位性が改めて着目されることになった。そこで、ヘチマ栽培、加工で著名なへちま産業に連携を打診し、ヘチマを通じたSDGs活動の可能性を共に模索することとなった。具体的な活動内容は以下の通りである。

(1) ヘチマを使ったSDGs新商品の開発

ヘチマ利用SDGs商品の新開発、具体的には、へちま水をベースとした若者向け化粧水の開発を進めた。へちま産業で既に販売しているオーガニックへちま水を若者にアレンジして製品化する戦略を議論した。

(2) ヘチマ商品の販売拡大

ヘチマの有用性を若者により訴求するために、TiktokやインスタグラムなどSNSを活用したマーケティング戦略を提案した。

活動の成果

- へちま水をベースとした若者向け化粧水の開発
- へちま関連アイテム向け、SNS(Tiktokなど)を活用したマーケティング

今後の課題・目標・展開の可能性

- ヘチマ関連アイテム(ヘチマたわし、ヘチマ石鹸など)の販売拡大支援
- 若者向けヘチマ化粧水の商品開発と、SNSマーケティング
- 技能実習生の招聘(ヘチマ栽培に従事する労働力の不足を補うため)

連携先からの一言

若者の感性を活かし、SNSなどの新しいツールでヘチマの良い点を広くアピールしてもらえているので、理想的な産学連携になっていると思います。

(へちま産業　社長　瀧田秀成氏)

商学部　教授　小井川 広志　Oikawa Hiroshi

途上国(主にアジア地域)の経済発展の問題に関心を持つ。民間の企業活動が途上国貧困層の社会経済問題の解決につながるようなビジネスモデルの構築を模索している。

新事業開発による伝統産業の活性化事業

おみくじ線香

#伝統産業　#新事業開発　#堺

目的

経営学を学ぶ学生と企業が連携し、堺市の伝統産業の経営資源を活用した新事業開発を考えることにより、経営学の学習を進めるとともに、伝統産業の活性化を目指す

ビジネスアイデアコンテスト

活動の概要

- **主な連携先**
  堺市 産業振興局 産業戦略部 地域産業課　振興係　松原達規氏
  株式会社福井代表取締役　福井基成氏
  株式会社奥野晴明堂代表取締役　奥野浩史氏
  株式会社ナカニ代表取締役　中尾雄二氏
- **活動地域**
  大阪府堺市
- **活動期間**
  2020年～2023年
- **活動資金**
  堺市と関西大学との地域連携事業

連携にいたる経緯

社会学部の上野ゼミでは、経営学を学びながら地域の課題解決に取り組んできた。より実践的な学びの場を提供するために、地域連携協定を結んでいる堺市に対して、新事業開発による伝統産業の活性化事業を提案し了承され、堺市の企業の協力を得た。

現地調査

線香新商品「黒歴史燃やしたるさかい」

活動内容

2020年度は堺の伝統産業に対する訪問聞き取り調査を行った。その成果を発表するために、関西大学堺キャンパスにおいて、「『新事業開発による伝統産業の活性化事業』報告講演会」をオンラインの形式により開催した。2020年度の研究成果を踏まえ、2021年度には企業と連携してビジネスアイデアコンテストを開催し、関西大学(上野ゼミ)、大阪市立大学(吉村ゼミ)、大阪府立大学(今井ゼミ)の3大学の学生が新事業開発のアイデアを提案し、四つのアイデアが審査員特別賞を受賞した。2022年度はそのアイデアの事業化を企業とともに取り組んだ。線香産業の老舗企業の奥野晴明堂と共同開発した「おみくじ線香」を正月三が日に開口神社で試験販売し、180本が完売。また線香の新商品「黒歴史燃やしたるさかい」を堺伝匠館で試験販売を行い、4日間で8箱が完売した。株式会社福井とは包丁のサブスクリプションの事業システムの構築を検討している。

活動の成果

- 『新事業開発による伝統産業の活性化事業』成果報告会の開催
- おみくじ線香の試験販売と線香新商品「黒歴史燃やしたるさかい」の試験販売で商品完売
- 堺の和包丁のサブスクリプションのシステム構築の検討

今後の課題・目標・展開の可能性

- ビジネスアイデアコンテストを通して新事業の実現に向けて企業との連携を継続する
- 伝統産業のさらなる活性化に向けてあらたなイベントを検討する
- 学生の学習を深めるために、企業との連携を強化する

連携先からの一言

この事業を通じて、学生の皆さんが提案したビジネスアイデアをもとに新たに事業化され、いずれもメディアに取り上げられるなど、堺の伝統産業である線香の業界に新たな風を吹き込んでいただきました。

(堺市地域産業課　松原氏)

社会学部　教授　上野　恭裕　Ueno Yasuhiro

経営学が専門で、伝統産業やファミリービジネスの経営戦略を主に研究している。ゼミナールでは経営学を学びながら、地域の課題解決に向けたグループ研究を行っている。

走るデパ地下：阪急のスイーツ移動販売プロジェクト

#チャネル開拓　#移動販売　#コンセプト・メイキング

目的

阪急のスイーツ移動販売のスムーズな展開を模索するため、出店場所にあった商品構成やプロモーションを考え、阪急百貨店のブランド価値を高めるような移動販売プロジェクトを目指す

活動の概要

- **主な連携先**
  阪急阪神百貨店／総合情報学部 徳山美津恵ゼミ3年生
- **活動地域**
  大阪府大阪市、高槻市、吹田市
- **活動期間**
  2022年2月から2022年10月
- **活動資金**
  総合情報学部実験実習材料費（POP作成、子供向けイベントコーナーなど）

連携にいたる経緯

これまでに関西地域の自治体や企業と一緒にプロジェクトに取り組んできた経験により、地域連携センターを経由して依頼される。

活動内容

2022年度の関大フェスにて阪急のスイーツ移動販売を展開することを一つの目標に、同年2月に阪急阪神百貨店、関西大学校友会(関大フェス主催者)、徳山ゼミの顔合わせを兼ねたワークショップを開催した。その際、阪急阪神百貨店から移動販売事業に取り組む経緯等についてヒアリングした後、ゼミ生をターゲット別に3グループに分け、移動販売のコンセプトについてのアイディア出し、リサーチ計画策定などを行なった。その後、百貨店や販売場所候補地での現地調査を行い、5月に高槻キャンパスにて3グループによるコンセプト提案を行った。その結果、メイン・ターゲットは「30代のママ」、サブ・ターゲットは「未就学の子供」と決まった。

7月に安満遺跡公園にてテスト販売を行うため、ターゲットに合わせた商品選定やPOPの作成、顧客満足度に関する調査項目の作成を行い、当日を迎えた。そのフィードバックによって、商品構成や棚割を見直した他、子供向けイベントなどを検討し、10月の関大フェスにて販売と顧客満足度調査を行なった。

活動の成果

- 移動販売の今後の展開への貢献
- ターゲットの設定やコンセプト立案などマーケティングの理論の実践
- 百貨店の販売業務に関わるプロセス(商品選定)への関与

今後の課題・目標・展開の可能性

- より高度な分析と提案ができるような顧客満足度調査データを収集したい
- 学生の能力を発揮できるような、より戦略的な情報発信がしたい

連携先からの一言

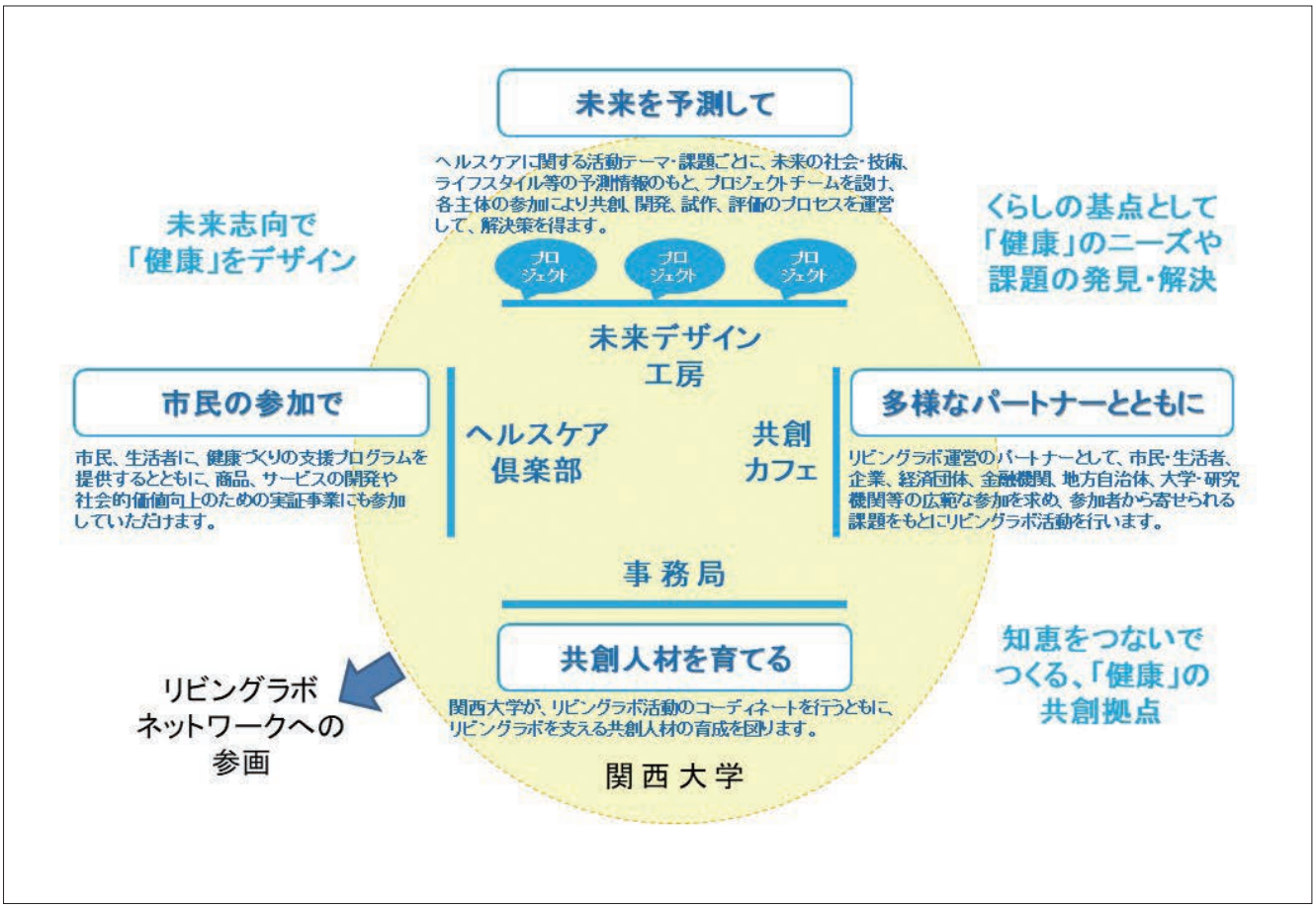
従来の百貨店のビジネスからはイメージできない新しい事業領域ではありますが、現地調査や販売の協力など熱心に取り組んでいただけました。百貨店が今後獲得したい若年層にある学生様のアイデアは、我々にはない感性で非常に刺激になりました。学生様にとってはマーケティングやブランディングの基本となる現場でのリアルな声の重要性を感じていただけたのではないかと思っております。

(阪急阪神百貨店
フード新規事業開発部　河野氏)

総合情報学部　教授　徳山　美津恵　Tokuyama Mitsue

専門はマーケティング、ブランド論。地域を対象としたブランディングの研究を続けると共に、様々な自治体での各種委員や学生とのプロジェクトに取組む。

関西大学リビングラボ



#共創　#健康まちづくり　#リビングラボ

目的

オープンイノベーションの仕組みを活かして新たな商品、サービス、政策などの社会的価値を創出し、オープンイノベーションの拠点創出による産学官民の連携機会の拡大を目指す

活動の概要

- **主な連携先**
  吹田市／摂津市／国立循環器病研究センター／医薬基盤・健康・栄養研究所やパートナー協議会参加団体・企業
- **活動地域**
  大阪府吹田市・摂津市（北大阪健康医療都市［健都］）／大阪府内各所
- **活動期間**
  2019年度～継続中
- **活動資金**
  パートナー協議会参加会費　他

連携にいたる経緯

国立循環器病研究センターと関西大学との包括連携協定締結を契機に、健康まちづくりのための研究開発、成果の社会実装を行っており、北大阪健康医療都市を活動の出発点としつつ、幅広い課題に産学官民が取組む拠点として2019年度に設置し運営する。

活動内容

関西大学リビングラボは、市民・生活者を中心に、企業や地方自治体、大学や研究機関が連携する共創の場であり、新たな商品やサービスの開発、地域課題の解決に向けた取組みを行うオープンイノベーションシステムである。これを円滑に進めるため、共創カフェ、未来デザイン工房、ヘルスケア倶楽部で構成する。

[共創カフェ]

市民・生活者、企業、経済団体、金融機関、地方自治体、大学・研究機関等の広範な参加を得て、「共創カフェ」を主催し、ヘルスケアについての潜在的なニーズや課題の発見、課題解決のデザイン、共創メンバーを見つける。

[未来デザイン工房]

ヘルスケアに関する活動テーマ・課題ごとにプロジェクトチームを設け、未来の社会・技術、ライフスタイル等の予測情報のもと、共創、開発、試作、評価のプロセスを運営して、解決策を得る。

[ヘルスケア倶楽部]

市民・生活者の参加により、健康づくりの支援プログラムを提供し、参加者の協力により、商品やサービスの開発などの社会的価値向上のための実証事業に取組む。

活動の成果

- リビングラボ運営による、[共創カフェ] におけるウェルビーイングを高める共創の取組みに向けた実践
- 産官学民が参画する共創機会におけるコーディネーション、価値創造ツール開発研究

今後の課題・目標・展開の可能性

- 共創の取組みテーマのプロジェクト化および解決策の提示
- リビングラボネットワークの構築と共創手法の実践的改善プロセスの研究

連携先からの一言

利用者・市民主体のオープンイノベーションにふさわしい研究開発や地域政策があれば、リビングラボの取組みによって新しい価値を追求してみたいと思います。

(共創カフェ参加者)

環境都市工学部　教授　北詰　恵一　Kitazume Keiichi

専門は、社会基盤の費用便益分析、土地利用・交通モデルの開発、公共事業評価、地域再生のあり方などを研究し、公民連携に関わる活動をしている。「健康と環境の好循環」を構築するための研究における影響・効果計測、モデル開発、行動変容促進を手掛け、それを実践して効果を高めるための社会システムの構築を目指す。

自治体と連携した

CASE 01

夏休みこども大学

自 治 体 » 大阪府 高槻市
開 催 日 » 2022 年 7 月 30 日
開催場所 » 高槻ミューズキャンパス

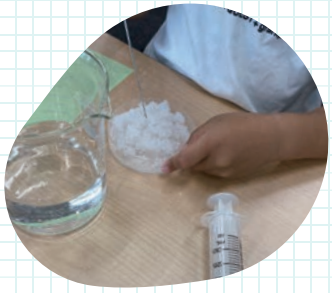
本学と連携協定を締結している高槻市と共に、市内在住の小学生を対象に小学校では体験できない学習の場を提供しています。子どもの知的好奇心を刺激し、学習意欲の向上を図ることを目的としています。

講座 01　総合情報学部 教授　友枝 明保

錯視立体の世界を体験しよう
ー 光の直進と反射 ー

講座 02　化学生命工学部 准教授　河村 暁文

生活を豊かにするプラスチック
ーその機能とリサイクルの最前線 ー



取り組み事例

CASE 02

明日香村子どもスポーツ体験 in 関西大学

自 治 体 » 奈良県 明日香村
開 催 日 » 2022 年3月28日
開催場所 » 千里山キャンパス

当日の様子はこちらから

明日香村の小学3～6年生の児童と体育会KAISERSの学生たちが卓球・弓道・バドミントンを通して交流しました。本学学生たちは競技のコツや面白さを伝え、児童たちもその話を熱心に聞き、競技を楽しみました。

まとを外しても
どれだけ引けるか考えるのが
楽しかった！

今度やる時は教えて
もらったことを思い出して
がんばりたい！

体育会学生の感想

普段子供たちと触れ合う機会や競技を教えることがないので、僕たち自身もよい経験になった。何より参加した子供たちが楽しそうだったことが一番嬉しかった。

〈地域で活動する若い力〉奨励賞

地域連携センターでは、地域連携活動を通して学び、成長した学生チームを顕彰する事業として、2017年度より「〈地域で活動する若い力〉奨励賞」を設置しています。
様々な地域との連携活動に取り組む中で、「活動計画の立案」「チームワークの築き方」「障壁への対応力」などを実践的に身につけた学生たちが、本賞の書類・プレゼンテーション審査の過程で、自らの学び・成長を実感する機会となっています。プレゼンテーション審査会では、他チームの活動内容に触れ、学生同士が刺激し合う場ともなっています。

2022年度 最優秀賞

堺 ～TSUNAGARU～ アセアン プロジェクト

堺市と歴史的つながりの深い、ASEAN諸国に焦点を当て、過去から現在までの交流を発信することによって堺市の「多文化共生の実現」と「国際交流の推進」を目指すプロジェクト。

2021年度 最優秀賞

みんなのいのちを守りたい ～防災と福祉を架橋するプロジェクト～

草津市・尼崎市・高槻市で、障害者や難病患者、高齢者福祉施設等と連携し、動画制作やSNS等を利用して防災福祉に関する情報を発信するプロジェクト。

参加団体 ——— 2017～2022年度で総勢69組 ※同一団体含む （★最優秀賞 ☆優秀賞）

防災、限界集落、ICT教育、インバウンドなど多彩なテーマでの活動と学生の成長が報告されました。

2022

審査会出場

★堺～TSUNAGARU～アセアンプロジェクト / ☆“災害情報は贈り物”地域防災力向上プロジェクト / 見守り活動に関する絵本づくり / 協働で社会的価値を創造する「魔女プロジェクト」 / 新しい子供の遊び場 / 屋台を活用した地域の賑わいづくり / 八尾市情報発信コーナーにおける市民の関心を高める展示等の企画・運営 つよしずし / スターダスト河内 / 関関COLORS / 地域住民と共同で、サスティナブルファッションに取り組む / 新事業開発による伝統産業の活性化事業

2021

審査会出場

★みんなのいのちを守りたい～防災と福祉を架橋するプロジェクト～ /☆堺の魅力を世界に発信するための観光パンフレット作成・SNS活動 / 守口市の自治体ブランディング / 新しい遊びの場 / 地域の防犯・防災・スポーツ活動の推進

2019

審査会出場

★チームSKH 校内防災放送プロジェクト / ☆関西大学学生団体KUMC / ☆京丹波ケーブルテレビ・防災普及啓発プロジェクト / ICT48 / 小児科プロジェクト / 老松場古墳群ドキドキ発掘隊 / J-CaJa（Join-Cambodia&Japan）/ PCP Kandai 2019 / 経済学部後藤ゼミナール / 関西大学外国語学部 井上ゼミ / チーム「こども梧陵ガイドプロジェクト」 / チーム日吉台 コミュニティ防災プロジェクト

選考参加

Meet the GLOBE / 久多プロジェクト / TICKET / えふえむ草津プロジェクト / 福井「たかすいかす」プロジェクト / チーム「福島だるまプロジェクト」

※2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

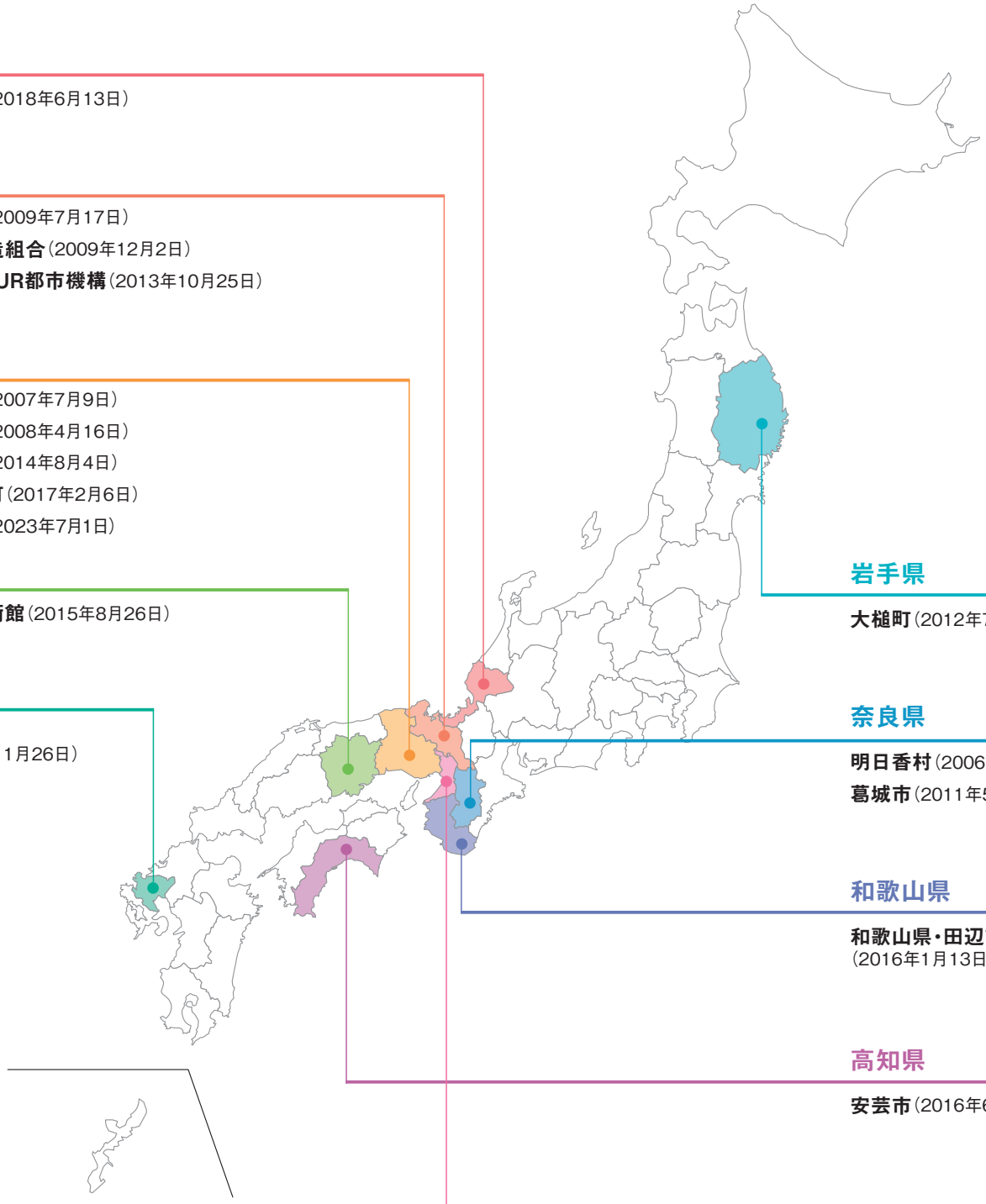
学生's Voice

◎書類、プレゼン審査を通して、活動を振り返り、プロジェクトについて各メンバーの成長などを話し合うことができるよい機会だった。
◎来年もパワーアップして参加したい。

観覧者's Voice

学生の取り組んだ活動が多種多様で楽しく聴けた。勉強になっただけでなく、自身のモチベーション向上にもつながった。

※(　)は協定締結日



福井県

大野市(2018年6月13日)

京都府

城陽市(2009年7月17日)
伏見酒造組合(2009年12月2日)
八幡市・UR都市機構(2013年10月25日)

兵庫県

丹波市(2007年7月9日)
加西市(2008年4月16日)
養父市(2014年8月4日)
猪名川町(2017年2月6日)
朝来市(2023年7月1日)

岡山県

林原美術館(2015年8月26日)

佐賀県

武雄市
(2007年11月26日)

岩手県

大槌町(2012年7月10日)

奈良県

明日香村(2006年2月7日)
葛城市(2011年5月27日)

和歌山県

和歌山県・田辺市
(2016年1月13日)

高知県

安芸市(2016年6月24日)

大阪府

りそな銀行(2004年11月8日)
大阪シティ信用金庫
(2008年8月1日)
池田泉州銀行(2010年8月27日)
国立循環器病研究センター
(2014年12月24日)
阪急電鉄(2017年4月25日)
三井住友銀行(2021年12月17日)
関西電力株式会社(2022年7月13日)
Daigasエナジー株式会社(2022年7月27日)
エア・ウォーター株式会社(2022年10月11日)

高槻市(2004年7月14日)
吹田市(2004年8月5日)
八尾市(2005年12月22日)
天神橋筋商店連合会(2007年11月29日)
堺市(2008年8月7日)
池田市(2008年9月10日)
大阪市北区役所(2011年2月24日)
道頓堀商店会(2013年1月16日)

摂津市(2015年4月2日)
大阪府都市整備部(2015年5月21日)
大阪府(2018年1月10日)
河内長野市・UR都市機構
(2018年2月20日)
河内長野市・コノミヤ(2018年12月21日)
岸和田市(2023年2月8日)

地域連携　　2022 年 7 月 4 日／No.15

■ 教育・文化の振興、人材育成、健康福祉の増進等で協働 ■

兵庫県朝来市と連携協定を締結

～ 活力ある地域づくりと大学の活性化を推進 ～

このたび関西大学と兵庫県朝来市は、地域および大学の活性化を目的とした連携協力協定を 7 月 1 日に締結しました。本件で、本学の自治体との連携協力協定は 23 例目（企業・団体を含めると 36 例目）となります。

本件のポイント
- **関西大学において、自治体では 23 例目、起業・団体を含めると 36 例目となる連携協力協定**
- **兵庫県朝来市における活力ある地域づくりおよび大学の活性化を目指す**
- **農業再生に関する共同研究をはじめ、教育・文化の振興、人材育成、健康福祉の増進などを推進**

本協定を機に、相互の人的、知的資源の交流および物的資源の活用を図り、活力ある地域づくりおよび大学の活性化に寄与します。主に、特色ある地域づくりをはじめ、教育・文化の振興、人材育成、健康福祉の増進等に関して連携を深めていきます。

朝来市は、竹田城跡や生野銀山・神子畑選鉱場などの貴重な文化・産業遺産を有しており、さらにはオオサンショウウオやコウノトリなどが生息する豊かな自然環境にも恵まれた町です。全国的な少子高齢化を背景に、早くから地域自治システムを構築し、社会課題の解決に向けた地域協働のまちづくりに取り組んでおり、本学教員も同市の総合計画策定や行財政改革に携わってきました。また、研究面においても、朝来市をはじめとした但馬地域において複数の共同プロジェクトを展開し、特に農業再生に関する研究において多くの実績を蓄積してきました。今後はさらに、教育・健康福祉などの分野でも協働して取り組んでいきます。

なお、本協定の有効期間は 2028 年 3 月 31 日までとし、その後は改めて協議を行うこととしています。

■ 主な連携・協力事項

（1）特色ある地域づくりに関する事項
（2）教育・文化の振興に関する事項
（3）人材育成に関する事項
（4）健康福祉の増進に関する事項
（5）地域産業の振興に関する事項
（6）学術研究に関する事項
（7）その他、双方が協議して必要と認める事項

（右から）
前田裕 学長
藤岡勇 市長

（関西大学：前田 裕 学長 コメント）
これまで、本学教員が財政改革や総合計画の委員を就任するなどの連携を行ってきた。今後は総合大学としての強みを生かし、地域再生や農業再生だけでなく、健康福祉や地域産業の復興などの様々な分野にて連携を進めていきたい。

（朝来市：藤岡 勇 市長 コメント）
関西大学が持つ知的・人的・物的資源を大いに活用させていただき、朝来市が持つ資源（自然環境、歴史文化遺産、市民・地域力など）とうまく融合させて、朝来市の活力ある地域づくりにつなげたい。相互に協力し、互いに実りある連携が出来ることを期待している。

※当日の配付資料および写真をご入用の方は、お手数ですが kouhou@ml.kandai.jp 宛にご請求ください。

この件に関するお問い合わせ先
関西大学　総合企画室 広報課　　担当：寺崎、島田、木田
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35　Tel.06-6368-0201　Fax.06-6368-1266
www.kansai-u.ac.jp

地域連携　　2023 年 2 月 9 日／No.59

■ 特色あるまちづくり、教育・文化・スポーツ・地域産業の振興、人材育成等で協働 ■

大阪府岸和田市と連携協定を締結

～ 活力ある地域づくりと大学の活性化を推進 ～

このたび関西大学と大阪府岸和田市は、地域および大学の活性化を目的とした連携協力協定を 2 月 8 日に締結しました。本件で、本学の自治体との連携協力協定は 24 例目（企業・団体を含めると 40 例目）となります。

本件のポイント
- 関西大学において、自治体では 24 例目、企業・団体を含めると 40 例目となる連携協力協定
- 大阪府岸和田市における活力ある地域づくりおよび大学の活性化を目指す
- 地域産業や教育・文化・スポーツの振興、人材育成、健康福祉の増進などを推進

本協定を機に、相互の人的、知的資源の交流および物的資源の活用を図り、特色ある地域・まちづくり、教育・文化・スポーツの振興、人材育成、健康・福祉の増進、地域産業の振興、学術研究等の 6 分野にわたる連携を推進していきます。

2022 年度は双方にとって記念すべき年であり、本学は大学昇格 100 年、岸和田市は市制 100 年を迎えました。こうした縁も背景に、相互に協力し、大阪をともに盛り上げていきます。今後は、岸和田市の地域課題について、文系・理系を問わず、様々な連携事業を進めていきます。2023 年度からは外国語学部の井上典子ゼミが、インバウンドの本格的な回復を見据え、同市の観光産業の活性化に取り組む予定です。

なお、本協定の有効期間は 2028 年 3 月 31 日までとし、その後は改めて協議を行うこととしています。

■ 主な連携・協力事項

（1）特色ある地域づくり・まちづくりに関する事項
（2）教育・文化・スポーツの振興に関する事項
（3）人材育成に関する事項
（4）健康・福祉の増進に関する事項
（5）地域産業の振興に関する事項
（6）学術研究に関する事項
（7）その他、双方が協議して必要と認める事項

＜（左から）前田裕学長と永野耕平市長＞

（関西大学：前田 裕 学長 コメント）

本学の学是「学の実化」が示す教育理念は「学理と実際との調和」であり、これは学問と実社会の相互作用を意味する。この理念に基づき、学生が岸和田市の地域課題を肌で感じ、大学での学びを課題解決や地域の活性化につながる学びに発展させていくことを期待している。市制 100 年、大学昇格 100 年と、ともに記念すべき年を迎えた縁も大切に、これからしっかりと連携を深めていきたい。

（岸和田市：永野 耕平 市長 コメント）

我々基礎自治体の知識、ノウハウだけでは市民のニーズを充足させていくのは難しく、教育・研究機関である大学との連携は非常に重要である。市外からの視点で、岸和田市の魅力を掘り起こし、地域資源を磨き上げていくなど、我々だけでは開くことのできない未来への扉を、学生の皆さんとの挑戦的な取り組みを進めることで、ともに開けていくことを期待している。

※当日の配付資料および写真をご入用の方は、お手数ですが kouhou@ml.kandai.jp 宛にご請求ください。

この件に関するお問い合わせ先
関西大学　総合企画室 広報課　　担当：寺崎、中村、木田
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35　Tel.06-6368-0201　Fax.06-6368-1266
www.kansai-u.ac.jp

地域連携活動の沿革

2002年　文部科学省中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」が「大学における教養教育」の「(2) 具体的方策」のなかで、「学生の時期に，社会や異文化の中で進んで様々な体験をし，自己や人生について考え，自分の生き方を切り開く力を身に付けることが重要であり，そのための機会を充実する必要がある」と提言しました。この答申は、ボランティアや海外留学などとともに、大学生が大学キャンパスの外で活動することが大学生の成長に通じるという新たな大学教育の在り方を示唆したものです。

2004年　関西大学は近隣都市 10 箇所の商工会議所と連携関係を構築しました。同年中に、キャンパスが設置されている吹田市、高槻市と連携協定を締結（2008 年には堺市と締結。2010 年に堺キャンパス開設）。以後、関西大学は年を追ってさまざまな自治体や企業等との地域連携活動を展開していきます。

2005年　関西大学は社会連携推進本部を設置しました。同組織のなかに地域連携センターが開設されました。

2008年　文部科学省は「平成 20 年度文部科学白書」のなかで「地域の発展における大学の役割」に言及し（第1部第2章）、「地域を支える専門人材の育成」「大学の知的資源の地域社会への還元」を提言しました。

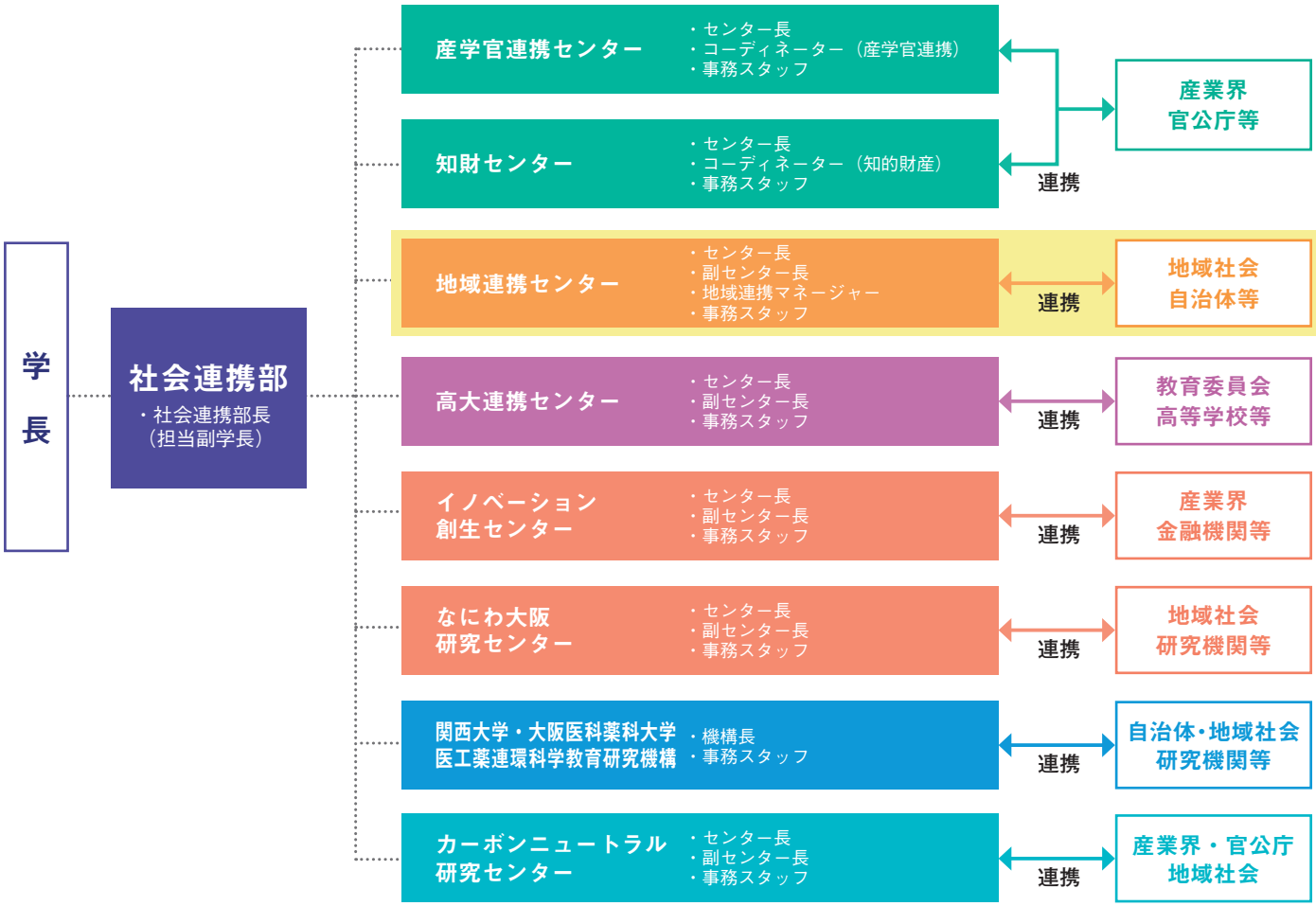
2008年　社会連携推進本部を改組し、全学組織として社会連携部を開設しました。地域連携センターは、産学官連携センター、知財センター、高大連携センター、イノベーション創生センター、なにわ大阪研究センター、関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学医工薬連環科学教育研究機構とともに社会連携部のもとに属しております。

2014年　関西大学地域連携センターは『関西大学地域事例集　Vol. 1』を刊行しました。

2017年　〈地域で活動する若い力〉奨励賞を設置しました。地域連携活動に従事する学生を顕彰するとともに、地域連携活動を大学の教育のなかに位置づける意図からです。以後、毎年、公開の審査会を開催しております。

2019年　関西大学の地域連携活動のコンセプトを内外に示す『地域で活動する若い力　関西大学の地域連携活動の目的と理念』を刊行しました。

地域連携センターの位置づけ



地域連携事業に関するQ＆A

Q1 「地域連携事業」に関心をもちましたが、誰でも大学と連携することはできますか?

A1 関西大学では、連携事業の運営管理を継続的に行っていただくため、原則、自治体や企業等との連携を対象としています。

Q2 大学との連携や地域活性化について相談したいのですが。

A2 関西大学の地域連携センターにご相談ください。場所と連絡先は本冊子の72頁にご案内しております。連携に必要な情報（課題、目的、連携内容、費用、役割分担等）について、お伺いいたします。

Q3 地域連携事業は、どのような資金で運営されていますか?

A3 その地域をフィールドとして研究に着手する教員が各種の競争的資金（各省庁の科学研究費、外部団体の補助金、本学の地域連携補助事業等）、企業からの受託研究、教員個人ごとに支給される個人研究費等を運用して進めています。地域連携事業は実にさまざまですから、活動の内容と規模に応じて、資金の規模もきわめて少額のものから年間数百万円にいたるものまでさまざまです。A9にご説明します地域連携協定を結んでいる場合には、連携先である自治体等からの資金で運営するケースもあります。調査や事業実施のための交通費等の必要経費の拠出をお願いすることもありますのでご相談ください。

Q4 関西大学の地域連携活動の事例をもっとくわしく知りたいのですが。

A4 地域連携センターでは、『関西大学地域連携事例集』を発行しております。Web版でもご覧になれます（https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/partnership/case_list/）。新たに始まった事例を収めた事例集を、順次、発刊しておりますので、詳細については地域連携センターにご連絡ください。

Q5 私たちの地域で検討している事業に協力可能な研究者の方を探したいのですが、どうすればよいでしょうか?

A5 地域連携センターにご相談ください。関西大学の専任教員の研究分野・業績等は、「関西大学学術情報システム」（https://gakujo.kansai-u.ac.jp/search/index.jsp）でもご覧になれます。連絡先を公開している教員については、直接ご連絡いただくこともできます。

Q6 教員を紹介してもらっても、うまく連携し事業実施まで進めるか心配です。

A6 双方の合意に至らない場合は、相談の段階で中止してもかまいません。地域連携センターにて、連携までのコーディネートや不明な点のサポート等を行います。

Q7 学生の若い力を地域に呼び込みたいのですが、どうすればよいでしょうか?

A7 学生の地域連携活動への参加は、(1) 教員の指導のもとでゼミ活動として参加する、(2) 学生の自主的な組織による、の2種類あります。(2) については、たとえば、商店街の活性化や自治体の行事の運営などの活動を行っていますが、その自治体が関西大学と地域連携協定を結んでいたことが出発点であることがほとんどです。地域連携は継続的な活動をめざしておりますので、一過的な企画で学生ボランティアを募るような場合には、学生センターが窓口になっております。最適な窓口をご紹介いたしますので、ご相談ください。

Q8 学生に活動してほしいのですが、不慮の事故などあってはとそこが気がかりです。

A8 関西大学では、学生の教育研究活動中の事故による傷害等に対する保険として、学生教育研究災害傷害保険に全学生を対象として一括加入しています。また、地域連携センターでは、学生の学外での活動に際して、他人にケガをさせたり、他人の物を壊した場合の補償（賠償責任保険）として「学研災付帯賠償責任保険」の加入手続きもしております。保険加入に関して、ご不明な点等がございましたら、地域連携センターにご相談ください。

Q9 自治体や企業が関西大学と地域連携協定を結ぶことで、どのようなメリットがありますか、あるいはまた、結ばないと何かデメリットがありますか?

A9 Q3 に A3 でお答えしましたように、地域連携事業は、教員が競争的資金や受託研究といった予算を獲得して自主的に行うものですから、地域連携協定を結ばなくても通常の活動にデメリットはありません。これらの資金は期限付きですので、地域連携協定を結んでも資金の終了とともに事業の終了が見込まれます。しかし逆に、①長期的で大型の競争的資金による活動でその成果が自治体や企業の長期的な政策に反映できる、②複数の分野の研究（つまり複数の学部の教員による研究）が同時に進んでいてその成果が自治体や企業の総合的な政策に反映できる、③自治体や企業がその活動を支援する固有の資金を拠出する用意がある、④自治体や企業がその活動を支援するのに既存の予算からの支出や設備の利用を認める用意がある、等の場合には、連携協定の目的や内容について相互の理解を固めるために協定を結ぶメリットがあります。とくに、自治体の場合、連携協定や、さらに細かな項目を明記した覚書を交わすことで、①②では住民に対する政策の表明、③④では活動を支援するための予算執行や設備利用（たとえば、公共交通機関や宿泊施設や会議施設の少ない地域での活動に便宜を供する、等）について議会や住民の理解を得る一助となります。

Q10 自治体や企業が地域連携協定を結ぶ相手は関西大学ということになりますか?

A10 関西大学と結ぶ包括的地域連携協定と、関西大学の一部局（学部、研究所等）と結ぶ地域連携協定とがあります。前者は、A9 の②や③のように、複数の分野の研究者（複数の学部の教員）による研究が進んでおり、多方面かつ長期的な展望のもとにその成果が見込まれる場合です。単独の部局に属す研究者（教員）による活動ならば、一部局との連携協定のほうが適しているでしょう。

Q11 地域連携協定にはどのようなことを記載するのでしょうか?

A11 地域連携協定の雛型を次頁に掲載しました。関西大学と結ぶ「包括的」地域連携協定は「包括的」の名の通り、地域の活性化（特定地区のまちづくり、地域産業の振興、等）、住民の福利の向上（健康・福祉の増進、地域の防災、等）、教育・文化の振興（学校教育活動の補助、市民講座、人材の育成、文化的遺産の学術調査、人的資源の交流、等）と複数の分野にわたる事業内容がやや抽象的なかたちで記されています。これにたいして、一部局との連携協定では、事業内容はもっと特化したかたちで具体的に記します。

Q12 細かい取り決めも地域連携協定に記しておいたほうがよいのでしょうか?

A12 すべてを地域連携協定に盛り込むのはかえって煩雑ですから、地域連携協定の下位の書類となる覚書を作るとよいでしょう。たとえば、その活動が地域や住民についての個人情報の調査を含む場合には、「守秘義務の遵守」を協定に記し、具体的な指示事項は覚書に記すとか、あるいはまた、研究成果を直接に住民に開示する催しを自治体の主催で行うなら、協定には「研究成果の地域住民への開示」を協定に記し、具体的な取り決めは覚書に記すといった使い分けができます。

いずれにしても、取り決めは双方の合意によるものですから、自治体や企業と大学側とで個別の事業ごとに文案を考えていただければけっこうです。地域連携センターはいつでもご相談にのります。

Q13 守秘義務の遵守については、大学側に指針がありますか?

A13 関西大学では、研究上の必要のために個人情報（それだけで個人が特定できる情報だけでなく、複数の情報を照らし合わせて個人が同定できる情報も含む）を取得する研究については、「関西大学における人を対象とする研究に関する倫理規程」を制定しており、審査委員会を設置しています。このほかにも部局によって独自の倫理審査委員会を設置しているところもあります。ご確認の必要がありましたら、研究者（教員）に適切な手続きが済んでいるかについてお問い合わせください。また、地域連携センターでもご質問に対応し、関連部署に照合いたします。

地域連携協定書 雛型

大学との包括的地域連携協定書

関西大学と○○市との連携協力に関する協定書

関西大学（以下「甲」という。）と○○市（以下「乙」という。）とは、相互の人的、知的資源の交流及び物的資源の活用を図り、第1条に掲げる目的を推進するために協定を締結する。

（目的）
第1条　この協定は、甲及び乙が、包括的な連携のもと相互に協力し、活力ある地域づくり及び大学の活性化に寄与することを目的とする。
（連携協力事項）
第2条　甲及び乙は、次の事項について連携し協力するものとする。
(1) 特色ある地域づくりに関する事項
(2) 教育・文化の振興に関する事項
(3) 人材育成に関する事項
(4) 福祉の増進に関する事項
(5) 地域産業の振興に関する事項
(6) 学術研究に関する事項
(7) その他、甲及び乙が協議して必要と認める事項
（期間）
第3条　この協定書の有効期間は、協定締結の日から1年間とする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の1月前までに、甲又は乙のいずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。
（その他）
第4条　この協定書に定めるもののほか、連携協力の細目その他の事項については、甲及び乙が協議して別に定めるものとする。

以上のとおり協定を締結した証として、この証書2通を作成し、双方記名押印の上、各自1通を保有する。

年　月　日

（甲）関西大学　　（乙）○○市

学　長　　市　長

見本

部局との地域連携協定書

関西大学○○学部と○○市との連携協力に関する協定書

関西大学（以下「甲」という。）と○○市（以下「乙」という。）とは、相互の人的、知的資源の交流及び物的資源の活用を図り、第1条に掲げる目的を推進するために協定を締結する。

（目的）
第1条　この協定は、甲及び乙が相互に協力し、活力ある地域づくり及び大学の活性化に寄与することを目的とする。
（連携協力事項）
第2条　甲及び乙は、・・・（具体的な連携内容を文章化）・・・について連携し協力するものとする。
（期間）
第3条　この協定書の有効期間は、協定締結の日から1年間とする。ただし、この協定書の有効期間満了の日の1ヶ月前までに、甲又は乙のいずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。
（その他）
第4条　この協定書に定めるもののほか、連携協力の細目その他の事項については、甲及び乙が協議して別に定めるものとする。

以上のとおり協定を締結した証として、この証書2通を作成し、双方記名押印の上、各自1通を保有する。

年　月　日

（甲）関西大学　　（乙）○○市

○○学部長　　○○市長

見本

学部・研究科一覧

変革の時代に求められる大学を、学部・大学院での教育を通して具現化。有用な人材と人類文化の担い手を養成します。

高度化・複雑化が増すばかりの現代にあって、社会環境の変化に即応し、総合的にものごとを検証できる広い視野と判断できる健全な価値観の育成が本学教育の目的です。「学理と実際との調和」を教育理念に、各学部では本質の理解と十分な基礎力の蓄積、問題解決につながる応用力と柔軟な思考力の醸成を推進。情報化・国際化に対応する新しいリテラシーの獲得、実験・実習やディベートなどの実践的なカリキュラムによって、真に有用な人材の育成に力を注いでいます。

本学は現在、13の学部と13の大学院研究科、2つの専門職大学院、1つの別科を擁する総合大学であり、世界各地からの留学生を含め、約3万人が在籍しています。2022年に創立136年、大学昇格100年を迎えました。本学は、さらなる発展に向け、常に躍動する、活気のある大学として邁進しています。

					入学定員	所在地
学部	法学部		法学政治学科		715	千里山キャンパス
	文学部		総合人文学科	英米文学英語学専修｜英米文化専修｜国語国文学専修｜哲学倫理学専修｜比較宗教学専修｜芸術学美術史専修 ヨーロッパ文化専修｜日本史・文化遺産学専修｜世界史専修｜地理学・地域環境学専修｜教育文化専修 初等教育学専修｜心理学専修｜映像文化専修｜文化共生学専修｜アジア文化専修	770	
	経済学部		経済学科	経済政策コース｜歴史・思想コース｜産業・企業経済コース｜国際経済コース	726	
	商学部		商学科	流通専修｜ファイナンス専修｜国際ビジネス専修｜マネジメント専修｜会計専修	726	
	社会学部		社会学科	社会学専攻／心理学専攻／メディア専攻／社会システムデザイン専攻	792	
	政策創造学部		政策学科	政治経済専修｜地域経営専修	250	
			国際アジア学科		100	
	外国語学部		外国語学科		165	
	人間健康学部		人間健康学科		330	堺キャンパス
	総合情報学部		総合情報学科		500	高槻キャンパス
	社会安全学部		安全マネジメント学科		275	高槻ミューズキャンパス
	システム理工学部		数学科／物理・応用物理学科／機械工学科／電気電子情報工学科		501	千里山キャンパス
	環境都市工学部		建築学科／都市システム工学科／エネルギー環境・化学工学科		325	
	化学生命工学部		化学・物質工学科／生命・生物工学科		347	
大学院	法学研究科	博士課程前期課程	法学・政治学専攻		30	千里山キャンパス
		博士課程後期課程	法学・政治学専攻		8	
	文学研究科	博士課程前期課程	総合人文学専攻	英米文学英語学専修｜英米文化専修｜国文学専修｜哲学専修｜芸術学美術史専修 日本史学専修｜世界史学専修｜ドイツ文学専修｜フランス文学専修｜地理学専修 教育学専修｜文化共生学専修｜映像文化専修	92	
		博士課程後期課程	総合人文学専攻	英米文学英語学専修｜国文学専修｜哲学専修｜史学専修｜ドイツ文学専修 フランス文学専修｜地理学専修｜教育学専修	19	
	経済学研究科	博士課程前期課程	経済学専攻		35	
		博士課程後期課程	経済学専攻		5	
	商学研究科	博士課程前期課程	商学専攻		35	
		博士課程後期課程	商学専攻		5	
	社会学研究科	博士課程前期課程	社会学専攻／社会システムデザイン専攻／マス・コミュニケーション学専攻		30	
		博士課程後期課程	社会学専攻／社会システムデザイン専攻／マス・コミュニケーション学専攻		9	
	総合情報学研究科	博士課程前期課程	社会情報学専攻／知識情報学専攻		50	高槻キャンパス
		博士課程後期課程	総合情報学専攻		8	
	理工学研究科	博士課程前期課程	システム理工学専攻 環境都市工学専攻 化学生命工学専攻	数学分野｜物理・応用物理学分野｜機械工学分野｜電気電子情報工学分野 建築学分野｜都市システム工学分野｜エネルギー環境・化学工学分野 化学・物質工学分野｜生命・生物工学分野	336	千里山キャンパス
		博士課程後期課程	総合理工学専攻	数学分野｜物理・応用物理学分野｜機械工学分野｜電気電子情報工学分野 建築学分野｜都市システム工学分野｜エネルギー環境・化学工学分野 化学・物質工学分野｜生命・生物工学分野	47	
	外国語教育学研究科	博士課程前期課程	外国語教育学専攻		25	
		博士課程後期課程	外国語教育学専攻		8	
	心理学研究科	博士課程前期課程	心理学専攻／心理臨床学専攻		27	
		博士課程後期課程	心理学専攻		6	
	社会安全研究科	博士課程前期課程	防災・減災専攻		15	高槻ミューズキャンパス
		博士課程後期課程	防災・減災専攻		5	
	東アジア文化研究科	博士課程前期課程	文化交渉学専攻		18	千里山キャンパス
		博士課程後期課程	文化交渉学専攻		12	
	ガバナンス研究科	博士課程前期課程	ガバナンス専攻		12	
		博士課程後期課程	ガバナンス専攻		3	
	人間健康研究科	博士課程前期課程	人間健康専攻		10	堺キャンパス
		博士課程後期課程	人間健康専攻		4	
	法務研究科 （法科大学院）	専門職学位課程	法曹養成専攻		40	千里山キャンパス
	会計研究科 （会計専門職大学院）	専門職学位課程	会計人養成専攻		40	
別科	留学生別科		日本語・日本文化教育プログラム進学コース		130	南千里国際プラザ

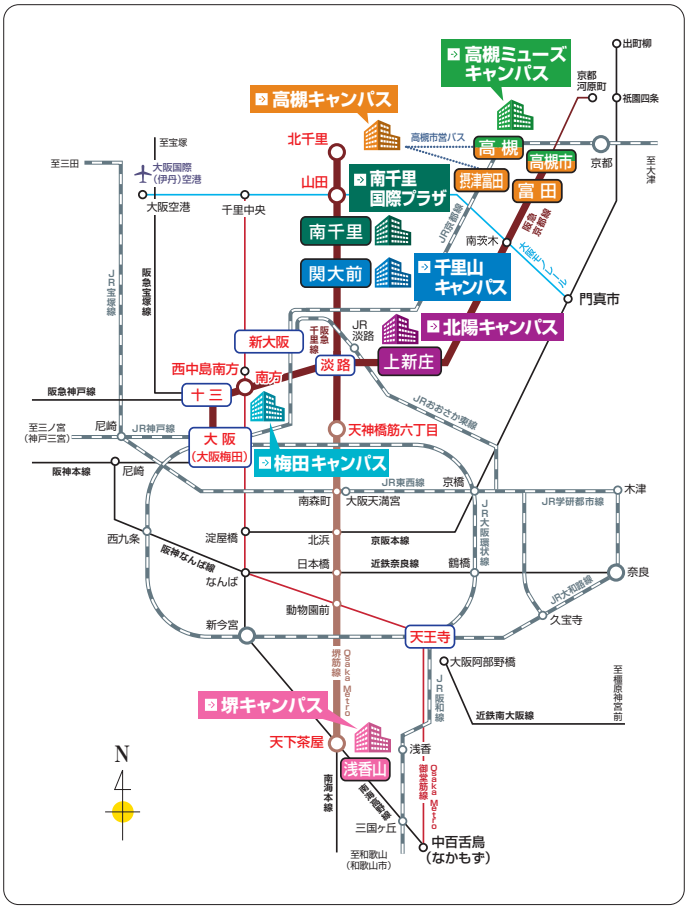
地域連携センターのご案内

関西大学 千里山キャンパス

お問い合わせ先

関西大学
社会連携部 地域連携センター

〒564-8680
大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
TEL：06-6368-1032(平日9：00～17：00)
FAX：06-6368-0858
E-mail：chiiki-mm@ml.kandai.jp
HP：https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/chiiki/index.html



お問い合わせ先

地域連携事例集(WEB版)および学術情報システムのご案内

本冊子の内容および研究者情報を
以下のWEB サイトでご覧いただけます。

地域連携事例集WEB版
https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/partnership/case_list/index.html

学術情報システム
https://gakujo.kansai-u.ac.jp/search/index.jsp

関西大学
地域連携事例集 Vol.6

2023年3月 発行

発行・編集
関西大学 社会連携部 地域連携センター
大阪府吹田市山手町3-3-35

印刷
株式会社 小西印刷所
兵庫県西宮市今津西浜町2-60

本書の収録内容の無断転載・複写・複製等を禁じます。

SIGILLUM·UNIVERSITATIS·KANSAIENSIS·MDCCCLXXXVI·